

新撰地誌

岡村増太郎編纂
訂正
二

昌
2
2
7
号



ル呂2
-2
卷

東京
學校
圖書

岡村增太郎編纂

新撰地誌

卷之三

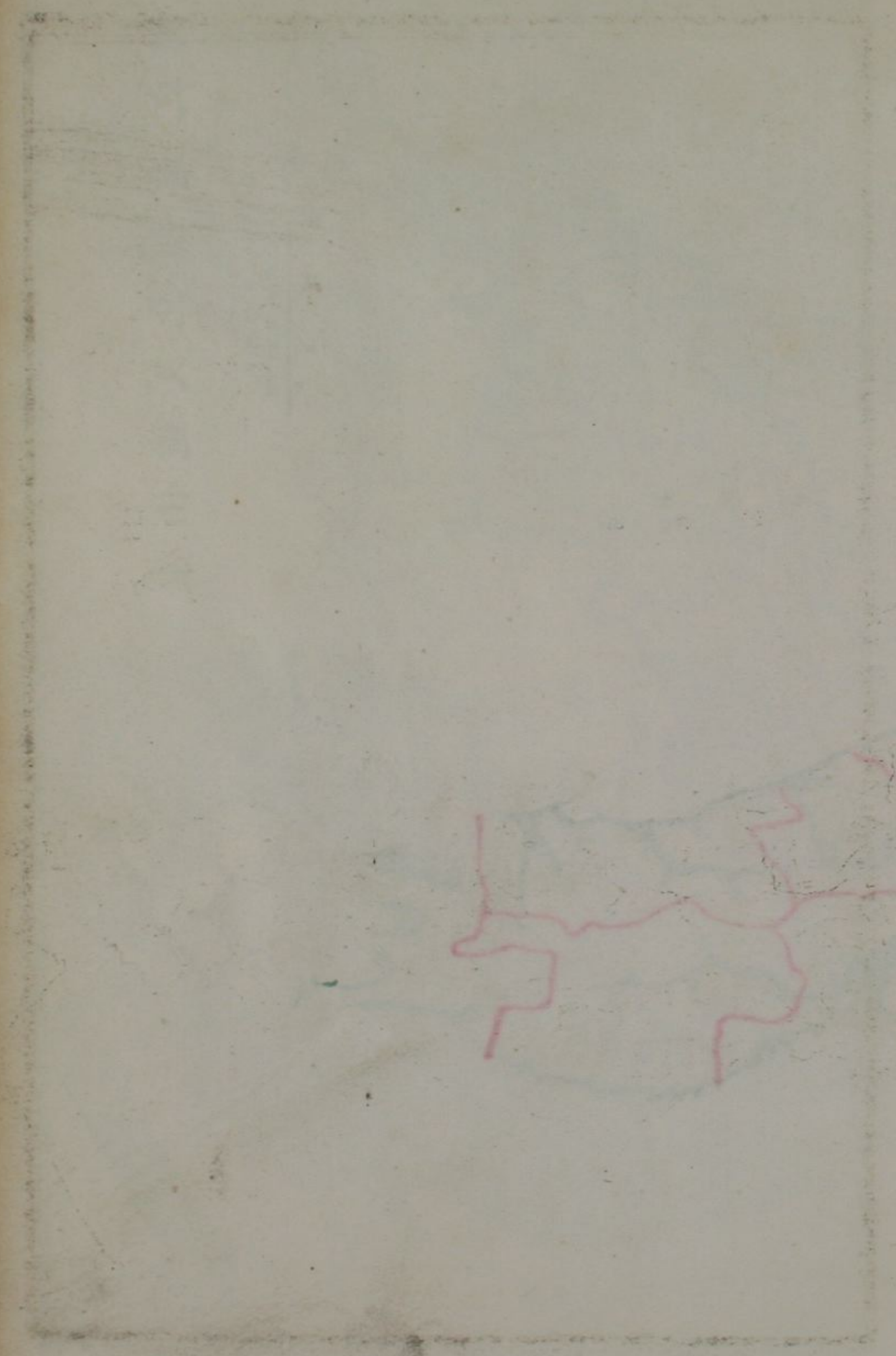
文學社

三本支
社印

岡林曾次郎藏

神藏

文學部



東山道及北陸之道圖

東陸六日
尺一十二百四
五

日本海



太平洋

第二篇日本誌續

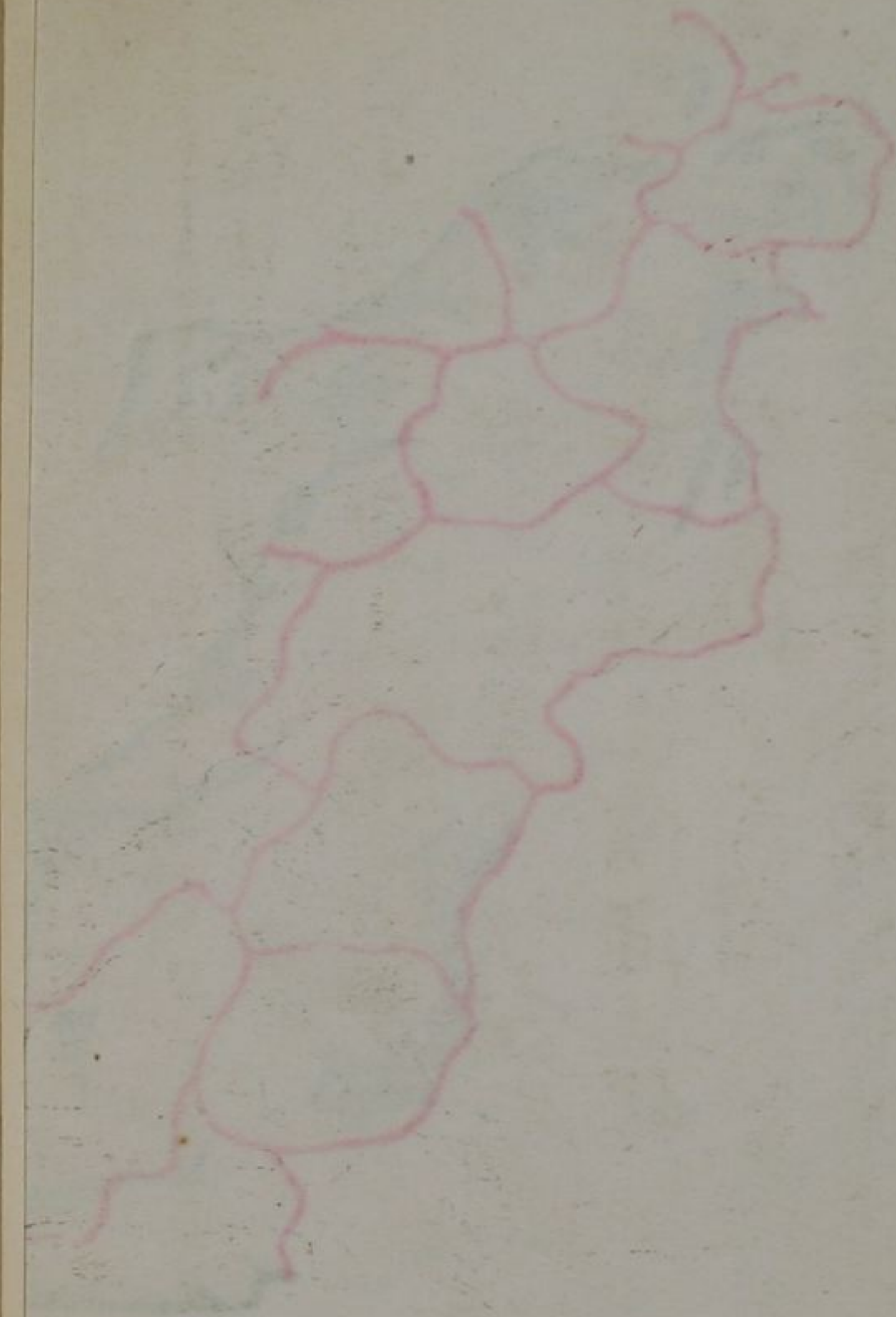
第四章 東山道

第一課 位置及諸國

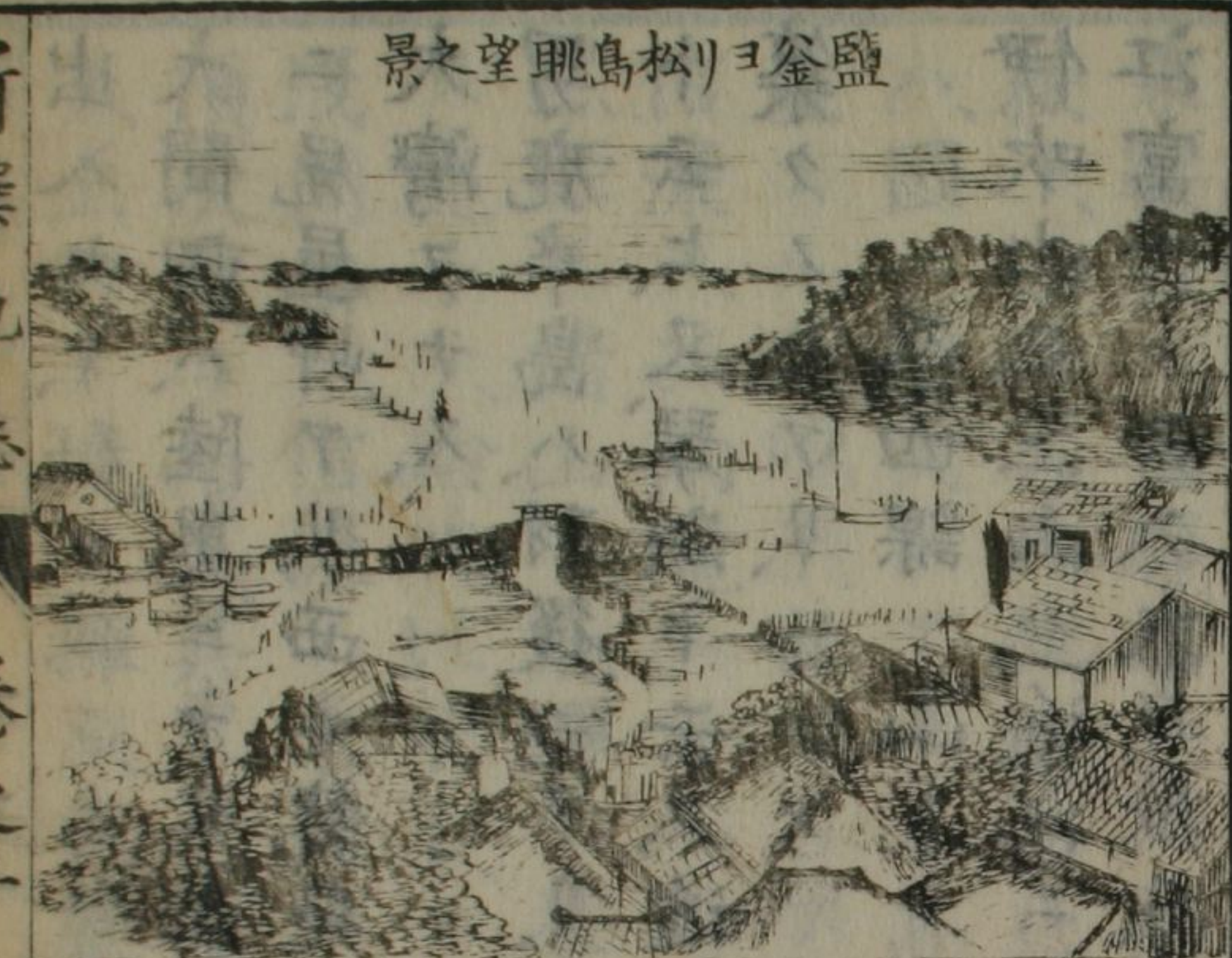
東山道ハ、西畿内及山陰道ニ接シ、近江美濃飛驒
信濃上野下野岩代ノ七國ハ、東海道或ハ北陸道ニ
境シ、磐城陸前陸中ハ、東太平洋ニ面シ、羽前羽後
ハ、西日本海ニ臨ム、北端ノ陸奥ハ、北海道ト、津輕
海峽ヲ隔テ、相對ス、

第二課 區劃

本道ハ、最廣濶ナルヲ以テ、地勢ニ從ヒテ、コレヲ



二部ニ大別スルコトアリ、即近江美濃飛驒信濃
 上野下野ヲ一部トシテ、コレヲ中仙道ト名ケ、磐
 城、岩代、陸前、陸中、陸奥、羽前、羽後ヲ一部トシテ、コ
 レヲ奥羽ト稱ス、
 地勢ハ、本州ノ脊梁ニシテ、高山並列シ、信濃、飛驒
 ハ、我國ノ最高地トス、
 第三課 海岸水陸
 磐城ノ海岸ハ、稍平坦ニシテ、出入少ク、大船ヲ船
 スベキ港ナシ、
 陸前ノ海岸ニ、斗出スル端ヲ、黒岬ト云フ、岬ニ近



キ海中ニ、金華山ト名ク
 ル孤島アリ、東南ノ海灣
 ニ、數百ノ島アリ、悉松ヲ
 生ズ、コレヲ松島ト云フ、
 日本三景ノ一ニシテ、翠
 色煙波ト相映ジ、風景ノ
 奇勝云フベカラズ、島ノ
 近傍ニ、寒風澤島アリ、漁
 船ノ碇泊所タリ、
 陸中ノ海岸ニハ、岬灣稍

新撰也 卷之二

出入セリ、

大間岬ハ、陸奥ニアリ、本州北方ノ盡頭ニシテ、東ニ尻屋岬アリ、西ニ龍飛崎アリ、海水東南ニ入り、大灣ヲナス、

男鹿半島ハ、羽後ニアリ、西ニ斗出ス、内ヲ八郎瀉ト云ヒ、又、琴湖ト云フ、近年、此湖ニ就キテ、新港ヲ築クノ企アリ、

第四課 山

伊吹山、三上山ハ、近江ニアリ、三上山ハ、稱シテ近江富士ト云フ、大日嶽ハ、美濃ノ北境ニアリ、

乘鞍嶽ハ、飛驒第一ノ高峯ニシテ、高サ、信濃ノ御嶽ト、伯仲ス、此他、槍岳北俣岳等、其北ニ連レリ、位山ハ、國ノ中央ニアリ、峯高カラザレドモ、一位木ヲ産スルヲ以テ、世ニ名アリ、
信濃ハ、西南境ニアル御嶽ハ、其東北境ナル戸隠黒姫ノ諸山ト、飛驒ノ乘鞍槍岳、越中ノ立山ト、脉ヲ連子テ、嶮峻比ナシ、
浅間岳ハ、信濃ノ東北ニ聳ユル、噴火山ニシテ、山頂灰塵ヲ噴ク、其東及南、碓氷荒船ノ諸山、屏列シテ、上野ノ境ヲ擁シ、武藏ノ秩父諸山ニ連レリ、其中

最高キモノヲ、三國峠トス、和田峠ハ、殆國ノ中央ニ位スル大山ナリ、

赤城、榛名、妙義ノ三山ハ、共ニ上野ニアリ、

日光山ハ、下野ノ西方ニアリテ、男體、女體等ノ峯アリ、

山麓ニ、東照宮ノ廟アリ、建築壯麗、天下ノ美觀ヲ極ム、庚申山ハ、其西ニアリ、奇絶ナリ、

吾妻山ハ、岩代、羽前ノ境ニ聳ユ、西ニ、飯豊山アリ、

越後ノ境ヲ擁シ、南ニ、二本松岳一名、安達山アリ、磐

城ノ朝日岳ニ連レリ、下野ノ境ニ、那須岳アリ、荒

野其麓ニ連ル、コレヲ那須原ト云フ、

恐山ハ、陸奥ノ北端ニアル火山ナリ、其山南海灣

ヲ隔テ、八甲田山ト相對ス、其西ニ磐城山アリ、雲

ヲ凌グ、其形ノ似タルヲ以テ、津輕富士ノ稱アリ、

陸中ノ境ニ、駒岳アリ、頗高峻ナリ、陸前、羽前ノ境

ニ、笹谷峠アリ、陸中ノ巖手山、早池峯山ハ、此山脉ノ

東ニアリ、羽後ノ大平山、鳥海山、羽前ノ月山、羽黑

山、湯殿山ハ、此山脉ノ西ニアリ、

第五課

川流ハ、中央ノ山脉ニ發シ、四方ニ分流シ、頗大河

ヲナス、

近江ハ、數多ノ川流、四境ノ連山ヨリ發シ、皆殆中央ナル、琵琶湖ニ入ル、湖西ニアリテ、大ナルヲ、安曇川トシ、湖東ニアリテ、大ナルヲ、姊川、愛知川、野洲川等トス、

水曾川ハ、信濃ニ發シ、水曾山中ヲ西流ス、水速ク、岩高クシテ、舟筏ヲ通ゼズ、美濃ニ入り、其飛驒川ト、合スルニ及ビテ、水勢彌大トナリ、又舟楫ノ便アリ、

飛驒ノ水流ハ、概北ニ下リ、北陸道ニ入ル、信濃川ハ、信濃ニアリ、上流ハ、千曲川、犀川ナリ、此

二川相會シ、信濃川トナリテ、越後ニ入ル、

利根川ハ、源ヲ上野ノ山間ヨリ發シ、片品川、吾妻

川、甘樂川ト會シ、益大河トナリ、武藏下總ニ入ル、

阿武隈川ハ、上流、磐城ヨリ來リ、岩代ノ境ヲ出入

シ、又磐城ニ入ル、福島ヨリ海ニ至ル迄、二十餘里

ノ間、舟楫ヲ通ズ、

北上川ハ、源ヲ陸中ノ北部ニ發シ、南流シテ、陸前

ニ入り、石卷港ニ注グ、河水深廣ニシテ、舟楫ヲ通

ズルコト、六七十里ニ及ブ、三陸第一ノ大河ナリ、

近來、此河ノ下流ヨリ、運河ヲ疏通シ、鳴瀨川ノ吐

口ナル、野蒜港ニ達スルニ至レリ、
羽前羽後ニ能代川一名米代川、御物川、酒田川、最上流ハ
ノ三河アリ、共ニ西流シテ、各海ニ入ル、コレヲ兩
羽ノ三大川ト云フ、

第六課 湖

琵琶湖 東西九三里、南北十八里餘、ハ其形ノ似タルヲ以テ、
其名ヲ得タリ、近江ノ稍中央ニアリ、我邦第一ノ大
湖ニシテ、湖中ニ奥沖竹生等ノ嶋アリ、湖面平ニ、風
色佳ニシテ、八景ノ勝アリ、近年湖中、小瀛船ヲ以
テ往來ヲ通ズ、北岸ニ賤ヶ岳アリ、著名ノ古戰場

羽柴秀吉、柴田勝家、兩氏ノ勝敗ヲ決セシ地ナリ、ソノ北ニ、余吾湖アリ、

琵琶湖ノ水ハ、南奔シテ瀨田川トナリ、山城ニ入
ル、宇治川是ナリ、

諏訪湖 東西一里餘、南北一里餘、ハ信濃ノ中央ニアリ、其

形圓シ、此湖ハ、高地ノ間ニアルヲ以テ、盛冬ニハ、

湖面堅氷ヲ結ビ、氷上人馬ヲ通ズベシ、其水南流

シテ、遠江ニ入ル、天龍川是ナリ、

榛名山上ニハ、榛名湖アリ、此間、風景尤佳シ、山腹

ニハ、有名ナル、伊香保ノ温泉アリ、

日光山中ニ、中禪寺湖アリ、華嚴霧降裡見等ノ瀑

布、殊ニ著ル

猪苗代湖東西四里、南北三ハ、岩代國磐梯山ノ南

麓ニアリ、其水溢レテ、日橋川トナリ、諸水ヲ合セ

テ、越後ニ下ル、即阿賀川是ナリ、近時水ヲ疏シテ、

湖畔ノ荒野ヲ開墾ス、

第七課 都會

彦根、長濱ハ、近江ニアリ、琵琶湖ノ東岸ニ瀕ス、大

津ハ、湖口ノ西ニ近ク、東海東山二道ノ要路ニシ

テ、且水陸運漕ノ衝ニ當ルヲ以テ、市街繁盛、滋賀

縣廳アリ、其西ニ逢阪山アリ、近時隧道ヲ穿テ、

瀛車ヲ通ズ、

岐阜ハ、美濃ノ長良川ニ沿ヘル都會ニシテ、岐阜

縣廳アリ、大垣ハ、岐阜ノ西ニアリ、關ヶ原ハ、又大

垣ノ西ニアリ、有名ノ古戰場徳川家康、石田三成等ト戦ヒシ地ナリ、

近時此地ヨリ、近江ノ長濱、越前ノ敦賀ニ達スル、

鐵道ヲ布ケリ、

高山ハ、飛彈ノ中央ニアル、都會ナリ、

上田ハ、信濃ニアリ、千曲川ニ臨ム、河畔ニ、姨捨山

アリ、觀月ノ勝地ニシテ、田毎ノ月ト稱スルモノ、

即是ナリ、長野ハ、其北ニシテ、長野縣廳アリ、又有

名ノ巨刹アリ、善光寺ト云フ、其南、犀川筑摩川ノ
 會スル地ヲ、川中島武田、上杉、二氏ノ古戰場ナリト云フ、松本ハ、
 犀川ノ東岸ニアル、一都會ナリ、
 上野ノ前橋ハ、利根川ノ流ニ沿ヘル、一都會ニシ
 テ、群馬縣廳ノ在ル處ナリ、高寄ハ、其西南、三里ニ
 アリ、養蠶ノ業盛ナリ、鐵路東京ヨリ此地ニ通ズ、
 下野ノ宇都宮ハ、栃木縣廳所在ノ都會ニシテ、近
 時東京ヨリ來ル鐵道、此ニ達セリ、栃木、日光モ亦
 國中ノ都會ナリ、
 岩代ノ福島ハ、阿武隈川ノ西岸ニアル、都會ニシ

テ、福島縣廳アリ、近傍、養
 蠶ノ業殊ニ盛ナリ、
 陸前ノ仙臺ハ、廣瀨川ニ
 沿ヒテ、建設セル大都會
 ニシテ、宮城縣廳此ニ在
 リ、人煙ノ繁盛ナルコト、
 東山道第一夕リ、其東南
 面ハ、平野十餘里ニ亘ル、
 是レ即、古ノ宮城野ニシ
 テ、古跡多シ、

福島製絲場



新撰地誌 卷之二

陸中ノ盛岡ハ北上川ノ上流ニアル、繁盛ノ一都會ニシテ、岩手縣廳此ニ在リ、

陸奥ノ青森港ハ、海船常ニ多ク、函館港ト船舶相往來セリ、又青森縣廳アリ、

羽前ノ山形ハ、兩羽中ニアリテ、通商最盛ナル都會ニシテ、山形縣廳アリ、

羽後ノ秋田ハ、御物川ノ北岸ニアリ、市街土寄港ニ連リ、繁盛ノ都會ニシテ、秋田縣廳アリ、

第八課 氣候及產物

中仙道ノ低地ハ、一般ニ溫和ナレドモ、飛驒信濃

ハ、寒氣烈シク、奥羽地方ハ、中仙道ニ比スレバ、寒冷甚シ、

全道ノ物産ハ、三陸美濃ノ米穀、信濃上野岩代等

ノ蠶桑、最有名ナリ、ソノ他、近江蚊帳、長濱縮緬、信

樂及土山茶、美濃ノ美濃紙、上野桐生ノ織物、下野

ノ真岡木綿、岩代ノ會津蠟燭、漆器、陸前ノ埋木、仙

臺平、陸中ノ南部縮緬、羽前ノ米澤織、羽後ノ秋田

畝織、春慶塗、秋田路等、世ニ知ラレタルモノニシ

テ、木曾ノ良材、奥羽ノ牛馬、陸中尾去澤ノ銅山、殊

ニ名アリ、

第五章 北陸道

第一課 位置及諸國

北陸道ハ西山陰道ニ交リ、南畿内ノ後ヨリ東山道ノ背ニ密接シテ、東北ニ至リ、西一帯日本海ヲ受ク、北海中ニ斗出セル、大半島ハ能登ニシテ、コレヨリ西南ニアルモノハ、加賀、越前、若狹ニシテ、東ニアルモノハ、越中、越後ナリ、佐渡ハ別ニ一小島ヲナシテ、越後ノ北ニ當レリ、

第二課 海岸水陸

若狹ノ瀕海ハ岬多クシテ、其間ニ狹クシテ長キ

入江アリ、其最著シキモノヲ、小濱ノ入江トス、越前ノ西南ニアリテ、斗出スル岬ヲ、立石崎ト云フ、一ノ狹クシテ長キ入江ヲ擁ス、

珠洲岬ハ能登ノ北端ニシテ、岩礁多ク、舟行險惡ナリ、七尾灣ハ深ク陸地ニ入りタル、大灣ニシテ、能登島、其内ニ横レリ、

第三課 山

若狹ハ至ル處、山多シト雖、一モ高キモノナシ、高白山ハ、加賀ノ東南隅ニ聳エタル高山ニシテ、積雪殆盡キズ、此山脉、越前、美濃、飛驒ニ亘ル、

能登ノ南境ニ、寶達山、石動山アリ、又北部ニ高洲山アリ、

立山ハ、越中ノ東南隅ニ聳ユル、中央山脉中ノ高峻ナル一山ニシテ、其高サ、白山ニ亞ク、其北ニ、連リタルハ、即、劍嶽ナリ、加賀ノ境ニ、大門山ト名ク、ル、大山アリ、其脉延キテ、礪波山トナル、此嶺ヲ、俱利加羅峠ト云フ、俱利加羅峠ハ、昔、木曾義仲平氏ノ軍ト、戦ヒシ所ナリ、
飯豊山ハ、越後羽前岩代ニ跨リ、御神樂守門等ノ諸岳ニ連ル、山脉西南ニ延キテ、越後ノ境ニ至リ、

佐渡礦山



妙高山、燒山アリ、亦越後ノ境ニ、蓮華山アリ、其脉海岸ニ盡ク、山下親不知ノ險アリ、
金北山ハ、佐渡島中ノ、最高キ峯ニシテ、群山、其左右ニ連ル、此山ノ南部ニ、八處々ニ、金銀坑アリ、
第四課 河
川流ハ、大概、東南ヨリ發

シ、西北ニ進ム、其東山道ヨリ、來ルモノハ、殊ニ大ナリトス、

日野川ハ、越前ノ南方ニ發シ、北流シテ、足羽九頭

龍、二川ヲ合セ、阪井港ニ注グ、

加賀ニ、手取川アリ、源ヲ白山ニ發シ、國ノ中央ヲ

貫ケリ、此他、犀川、大聖寺川等アリ、

越中ニ、川流ノ大ナルモノ、ニアリ、神通川、及射水

川一名雄神、是ナリ、二川共ニ、源ヲ飛驒ニ發ス、

信濃川一名千八、信濃ヨリ來リ、越後ノ中央ヲ、北

流シテ、海ニ注グ、其長サ、百里餘、本州、第一ノ長流

ナリ、ハ、要領ニ當リ、大島中第一ノ都會

第五課ニ、都會ニ對シ、高田ハ、越前

小濱港ハ、若狹ニアリ、福井ハ、越前ニアリ、足羽

川ニ跨レル、都會ニシテ、福井縣廳アリ、近傍、藤島

神社新田義貞ヲ祀リ、新田義アリ、

阪井ハ、舊三國ト云フ、安居川ノ口ニアリ、近時、港

口ヲ修築ス、古ヨリ有名ノ港ナリ、敦賀、又越前ニ

アリ、北海ノ要港ナリ、

加賀ノ金澤ハ、北國ノ大都會ニシテ、城市ノ宏壯、

人烟ノ繁盛ナリ、名古屋ニ亞グ、石川縣廳アリ、小

松大聖寺モ亦國內ノ都會ナリ、
 能登ノ七尾ハ人口數千ニ過ギザレドモ其港ハ
 碇泊ニ便ナルコト北陸第一ト稱ス、
 越中富山ハ神通川ノ右岸ニアリ、富山縣廳ノア
 ル都會ナリ、此地賣藥商多キ處ナリ、
 越後ノ新瀉ハ信濃川ノ河口ニアリ、外國互市場
 ノ一ニシテ繁盛ノ都會ナリ、新瀉縣廳アリ、内地
 ノ都會ヲ長岡、高田、三條、新發田、村上トス、中ニモ
 長岡ハ信濃川ニ沿ヒ舟運ノ便アリ、高田ハ越後
 信濃ノ要路ニ當レリ、

相川ハ佐渡ノ西海岸ニアリテ島中第一ノ都會
 ナリ、其後ハ即鑛山ナリ、土ニ鑛質ハ多ク、
 第六課ノ氣候及產物、東ニテハ、
 全道地形狹長ニ、東南山多ク、西北ハ次第ニ低下
 シ、海ニ臨ムヲ以テ氣候寒冷ナリ、
 全道ノ物産ハ天產物ニ、佐渡ノ金銀、越後ノ石腦
 油、沿海魚類アリ、製造品ニ、若狹ノ若狹塗、越前ノ
 奉書紬、雲丹、加賀ノ九谷燒、加賀絹、金澤ノ象眼細
 工、能登ノ輪島塗、越中ノ銅鐵器、越後ノ越後縮、五
 泉平等、最名アルモノナリ、

第六章 北海道

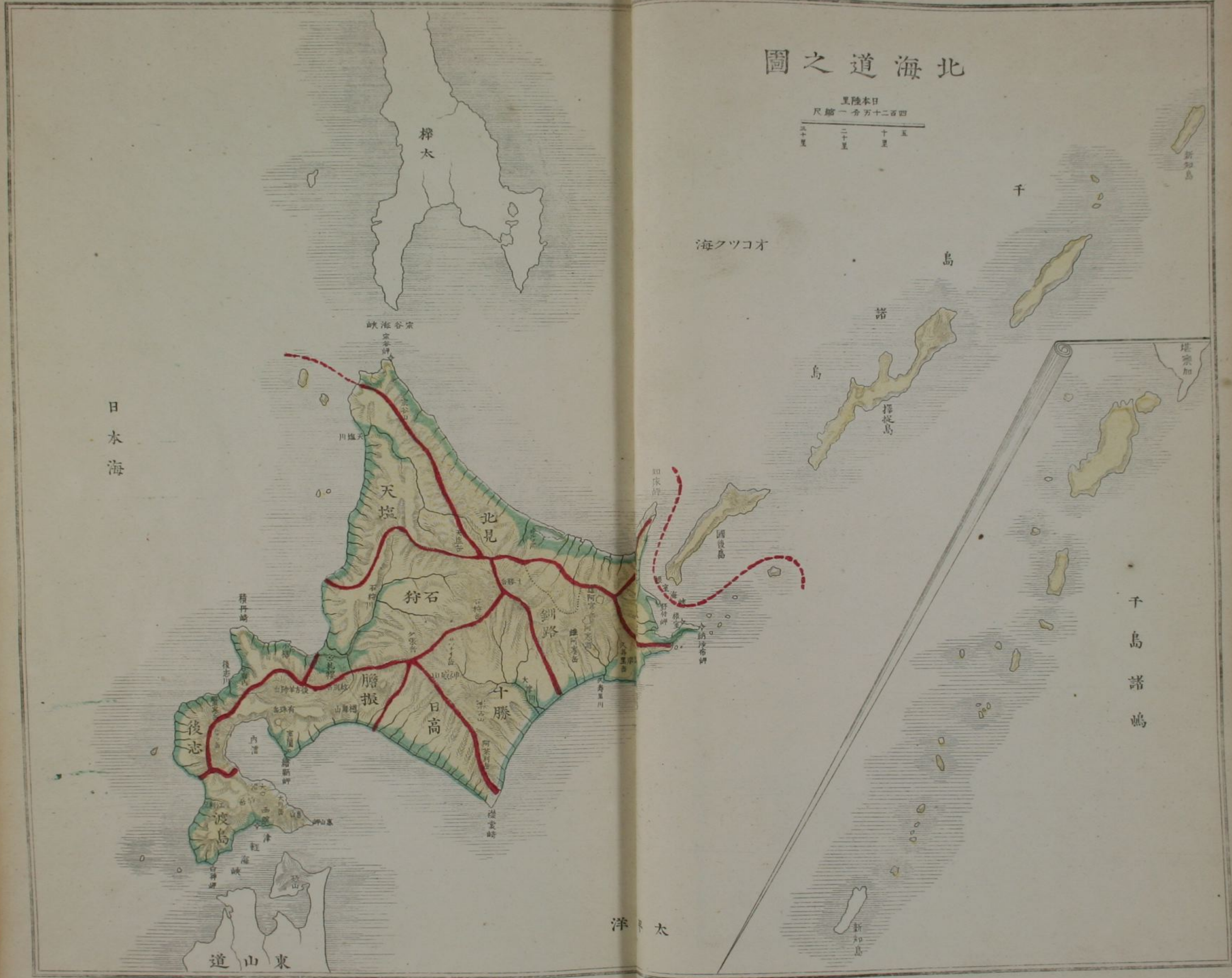
第一課 位置及諸國

北海道ハ本州ノ東北ニテリ、東南ハ太平洋、西ハ日本海、北ハ、北こつく海ニ濱ス、南ニ斗出シ、海峡ヲ隔テ、本州ニ對スル地ヲ、渡島トシ、日本海ニ面スル地ヲ、後志、石狩、天鹽トシ、北こつく海ニ、臨ミタル地ヲ、北見トシ、南太平洋ニ、瀕シタル地ヲ、膽振、日高、十勝、釧路トス、而シテ、其東ニアルヲ、根室トシ、千島ハ、根室ノ東北、海上ニ羅列スル、群島ノ總稱ナリ、

北海道之圖

皇陸本日
尺縮一萬五千二百四

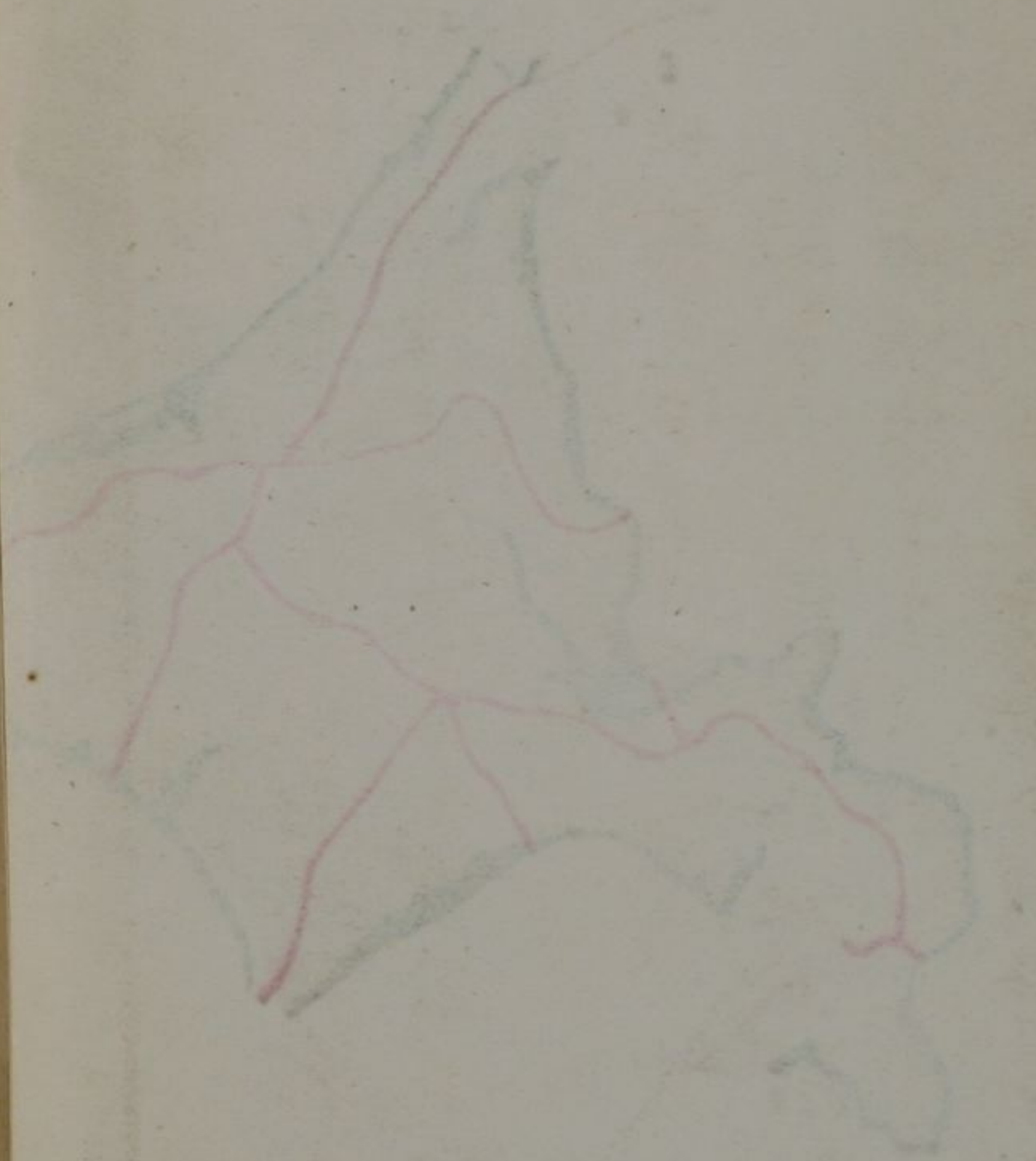
三十里	二十里	十里	五
-----	-----	----	---



新島
堪察加

第二課 海岸水陸

渡島ノ東端ニアルヲ、恵山岬トシ、南端ニアルヲ、
 白神岬トス、其間津輕海峡ヲ隔テ、大陸奥ト相對
 ス、積丹岬ハ、後志ノ北端ニアリ、其間四支ヲ分ル
 宗谷岬ハ、北見ノ北端ニシテ、樺太島魯ト相對シ、
 宗谷海峡ヲナス、潮流嶮惡ナリ、
 繪鞆岬ハ、膽振ノ南端ニアリ、渡島ト相對シ、
 ヲナス、コレヲ内浦ト云フ、
 襟裳岬ハ、日高ノ南端ニシテ、大洋ニ斗出ス、往時



八、此地ヲ以テ、口蝦夷、奥蝦夷ノ境トセリ、
根室ノ納沙布岬ハ、北見ノ知床岬ト、相對シテ、海
灣ヲナシ、野付岬ハ、灣ノ中央ニ、曲出シテ、根室海
峽ヲ隔テ、千島ノ國後島ト、相望ム。

第三課 山

山嶺ハ、全道ノ中央ニ、蟠屈シ、其脉、四方ニ分岐ス、
惠山ハ、渡島ノ東端ニ聳エ、陸奥ノ恐山ト、遙ニ相
對ス、其他、大川嶽、駒嶽等アリ、皆噴火山ナリ、
後方羊蹄山ハ、膽振ノ北境ニアリ、形ノ似タルヲ
以テ、蝦夷富士ト呼ブ、

石狩ノ南、膽振、日高十勝ノ境ニ、夕張岳アリ、石狩嶽
其東北ニ秀ヅ、州中ノ高山ナリ、其脉、北ニ赴クモ
ノハ、天鹽嶽ニ連リ、天鹽北見ノ境ニ亘リ、宗谷岬
ニ至ル、西南ニ到ルモノハ、即、夕張岳トナリ、南ニ
馳セ、日高十勝ノ境ナル、神威岳等ニ連リ、襟裳岬
ニ至リテ盡ク、
天鹽ノ東境ハ、山岳多ク、東南隅ニ、天鹽岳アリ、其
脉、諸山ニ連ル、
北見ハ、山脉國境ニ連リ、西北ニ、宗谷山アリ、東ニ、
斜里嶽アリ、

搏舞岳ハ、膽振ノ東方ニアリ、西方ニ、蟹寒嶽るこ
つ嶽アリ、中部ニ有珠紋別等ノ諸山アリ、有珠嶽
ハ、噴火山ナリ、
十勝ノ西北、山多シ、西境ニ樂古山薩内嶽等アリ、
其東北ナル境上ニ、十勝岳アリ、石狩ニ跨ル高山
ナリ、
雄阿寒岳、雌阿寒岳ハ、釧路ノ正北ニ對峙シ、雌峯、
常ニ灰沙ヲ噴ク、久壽里岳ハ、東南ニ秀ツ、

第四課 河湖

河流ハ、大低中央ノ大山脈ヨリ發シ、四方ニ分派

走注ス、
後志川ハ、後志ニアリ、石狩川ハ、石狩ニアリ、源ヲ
石狩嶽ハ、大瀑布ニ發シ、西南ニ流レ、海ニ入ル、長
サ百六十餘里、本邦第一ノ巨流ナリ、
天鹽川ハ、天鹽ニアリ、十勝石狩ニ嶽ノ北ニ發シ、
西北ニ流レ、海ニ入ル、河口ノ地ハ、蘆葦遠ク連リ、
泥沙殆江門ヲ塞ク、
大津川ハ、十勝ニアリ、久壽里川ハ、釧路ニアリ、
瀑布ノ著名ナルモノハ、石狩ノ石狩瀑、釧路ノ阿
寒瀑、千島國、擇捉島ノ刺鬼別瀑等ナリ、刺鬼別ノ

大瀑ハ高サ五十四丈直ニ海中ニ落ツ、湖沼ノ著大ナルモノヲ舉グレバ、渡島ノ大沼、釧路ノ阿寒湖、北見ノさまゐる湖等はナリ、

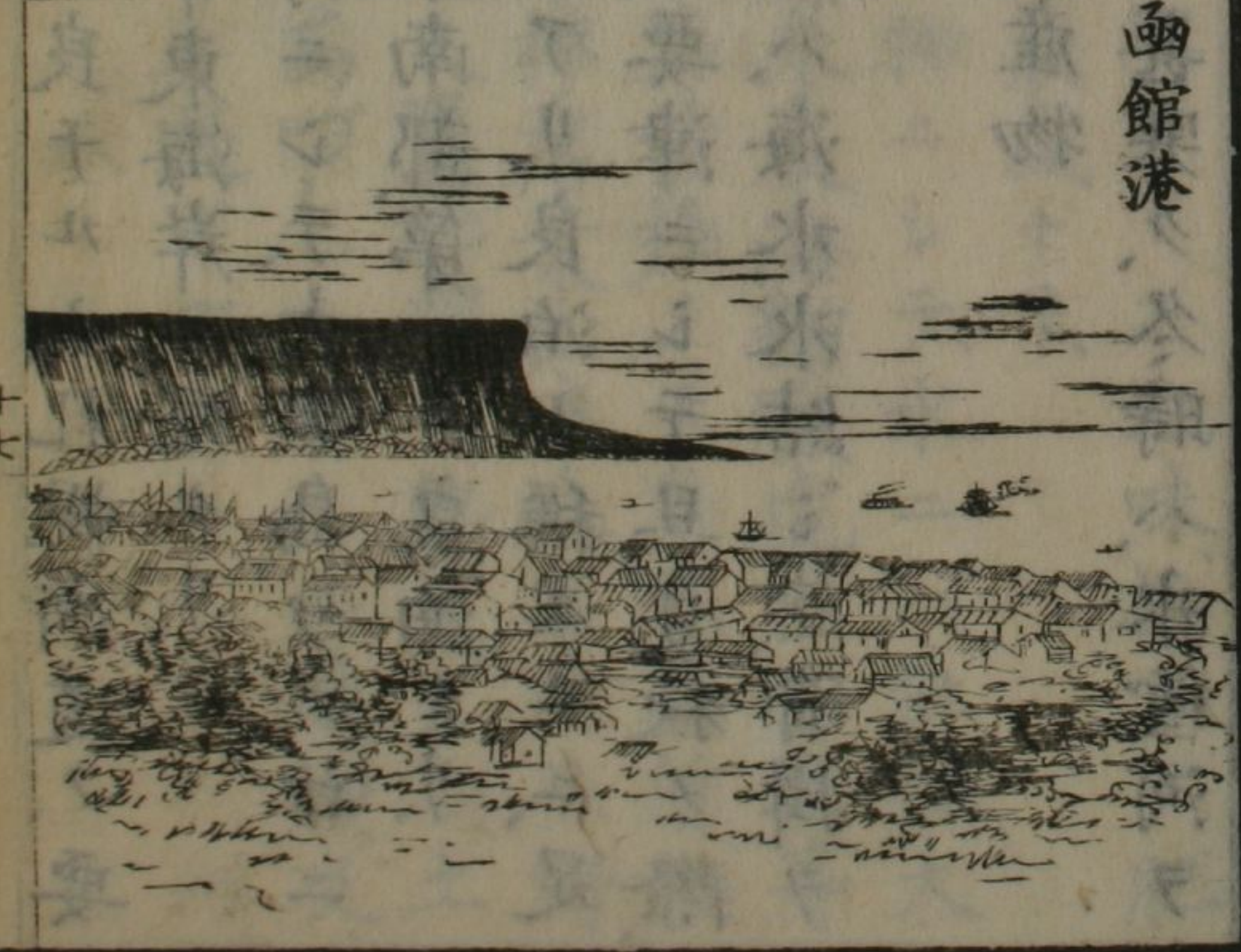
第五課 都會

渡島ノ函館五港一ハ、灣内水深ク、商船常ニ輻湊シ、貿易盛ニ行ル、市街ノ繁盛、全道第一ノ佳港ナリ、江刺ハ、其西ニアリ、函館ニ次グ、良港ナリ、後志ノ岩内ハ、岩内川ノ口ニアル、佳港ニシテ、近傍ニ、石炭礦アリ、鐵道ヲ敷キ、運輸ニ便ズ、故ニ、土地漸富庶ヲ致ス、小樽ハ、其東北ニシテ、石狩ノ境

ニ接スル、海濱ニアリ、商函館港

船湊集シ、人煙繁盛、漁網ノ利、殊ニ盛ナリ、

石狩ノ札幌ハ、北海道廳ノ在ル都會ニテ、石狩川ニ臨ム、市街ハ、近年、新ニ建テタルモノナレドモ、道廳、學校、醫院等、建築見ルベキモノアリテ、日ヲ逐フテ、繁盛ニ赴ケリ、



親指其言 卷之二
膽振ノ室蘭ハ其港ノ佳良ナルト札幌街道ノ要
衝ニ中ルトヲ以テ繁華東海岸ニ冠タリ
釧路ノ厚岸港ハ一ノ灣ニシテ大黒島ソノ口ニ
峙チ以テ風濤ヲ防グ東南部第一ノ良泊タリ
根室港ハ根室ノ東隅ニアリ良泊ト稱スルニ足
ラザレドモ千島ニ渡ル要津ニシテ且夏秋ノ際
捕魚ノ利甚大ナリ冬時ハ海水氷結シテ舟楫ヲ
通ゼズ

第六課 氣候及產物

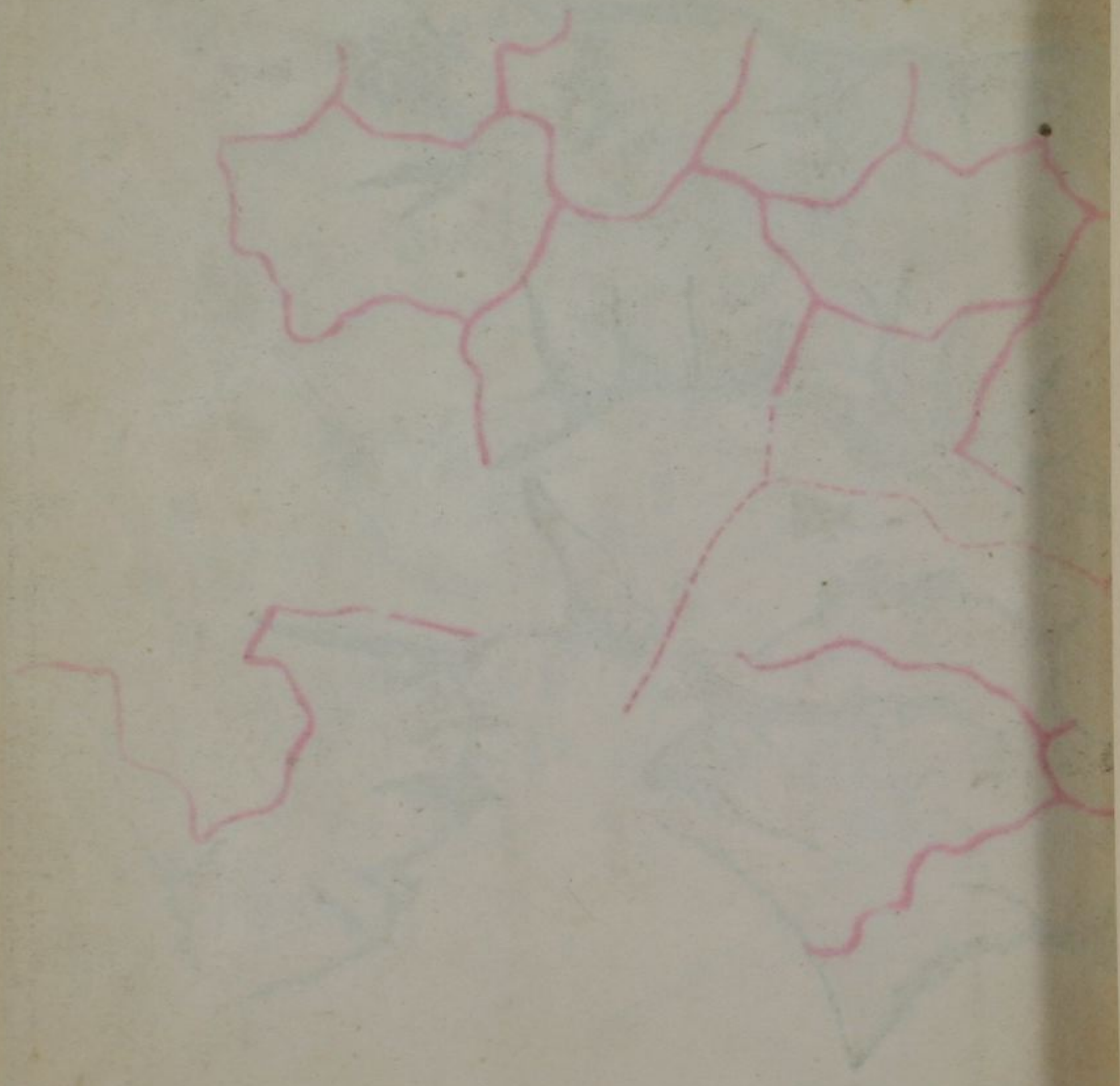
全道山脉平原多ク氣候甚寒ク冬時ハ冰雪河ヲ

埋メ人馬殆往來ヲ絶ス然レドモ地味極メテ肥
沃ニシテ沿海ノ地漁業最盛ナリ
全道ノ產物ハ多ク天產物ニシテ水ニハ鮭鱒大
口魚青魚鱒昆布海扇海參及海豹臘虎膾肭獸等
アリ礦物ハ石炭ト鐵ト其量極メテ多ク其質極
メテ良シ材料ニハ檜檜樺落葉松厚朴等アリ野
獸ニハ羆熊麋鹿等アリ又鷹鷲等ノ鷲鳥多シ土
人ノ製作ニ係ルモノハ女唄ト唱フル織物及
花紋ヲ彫刻セル器皿等ニ過ギズ
附說 八世昔遊夷ノ辭ニ土人ト云ハク和言語

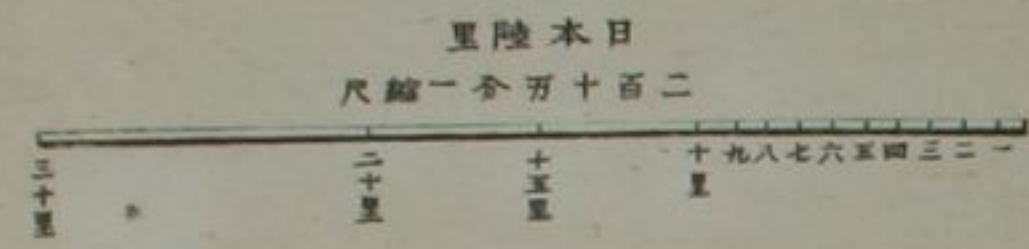
此地ハ往昔蝦夷ト稱シ、土人ヲ愛乃ト呼ブ、言語風俗内地ト異ナルヲ以テ、コレヲ畿内七道ノ外ニ置ケリ、王政革新ノ後、明治二年、北海道ト稱シ、其土ヲ分チテ、十一國トシ、開拓使ヲ置キテ、以テ、全地ヲ管轄シ、屯田ノ兵ヲ設ケテ、以テ、各府縣ノ施政ニ異別ス、同十五年、使ヲ廢シ、札幌根室函館ノ三縣ヲ置キシガ、同十九年、悉縣ヲ廢シテ、更ニ、北海道廳ヲ置ク、

第七章 山陰道

第一課 位置及諸國



山陰山陽及南海之道圖



日本海

北

陸

東

東

海

道

畿

内

熊野浦

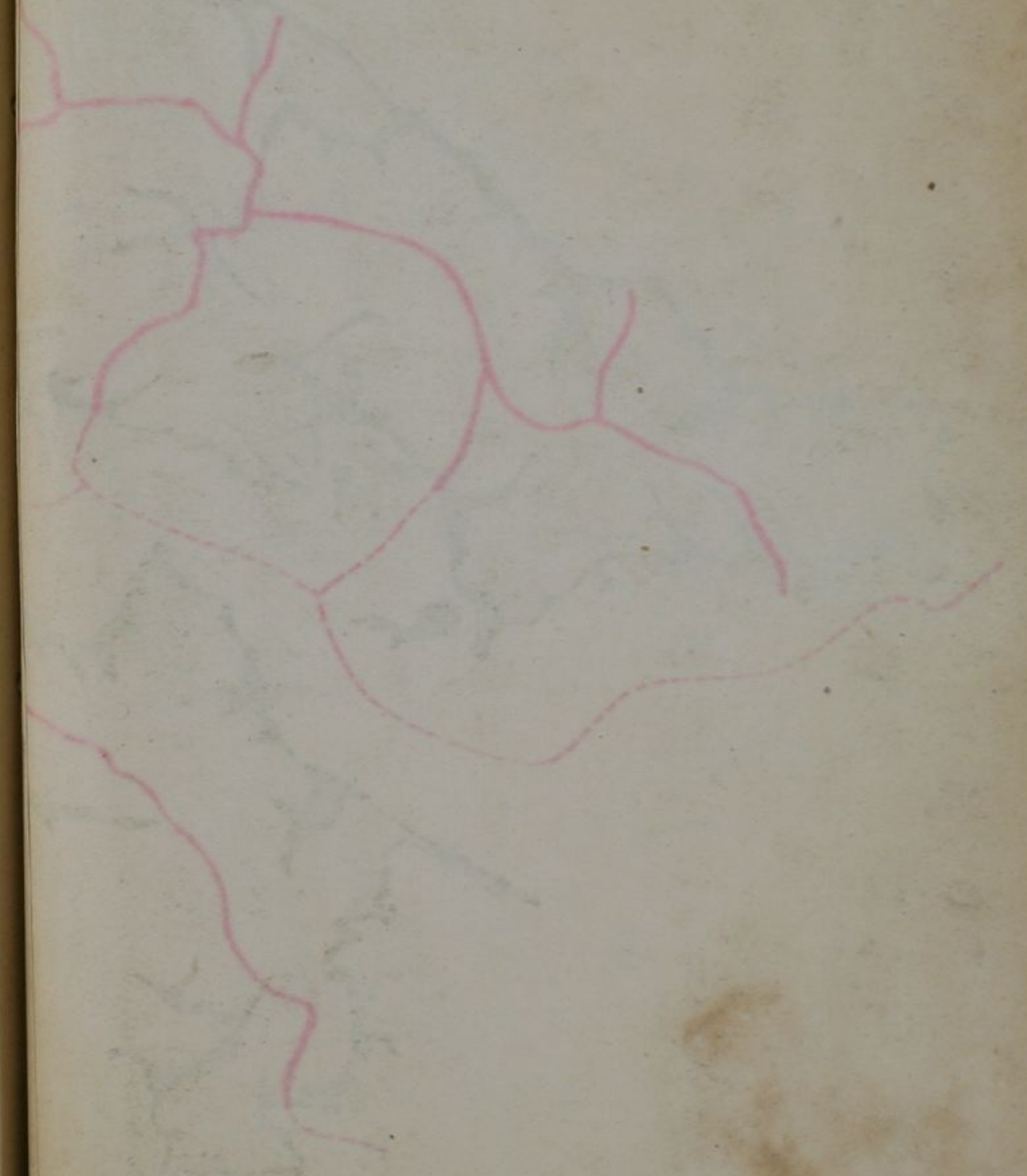
太平洋



山陰道ハ東北陸東山二道及畿内ニ隣リ南山陽
道ト山脊ヲ分チテ相表裏ス丹波ハ四境山岳ニ
シテ丹後但馬因幡伯耆出雲石見ハ北一帶日本
海ニ臨ム隱岐ハ其海中ノ孤島ナリ

第二課 海岸水陸

經岬ハ丹後ノ北海ニ突出スル北端ナリ東南ニ
灣アリ之ヲ舞鶴入江ト云フ
境渡ハ伯耆ニアリ北海ニ斗出セル砂嘴ニシテ
出雲ノ美保關ト海水ヲ擁シ一大灣ヲナス
追石鼻ハ出雲ノ西北端ニシテ西ヲ石見瀉ト云

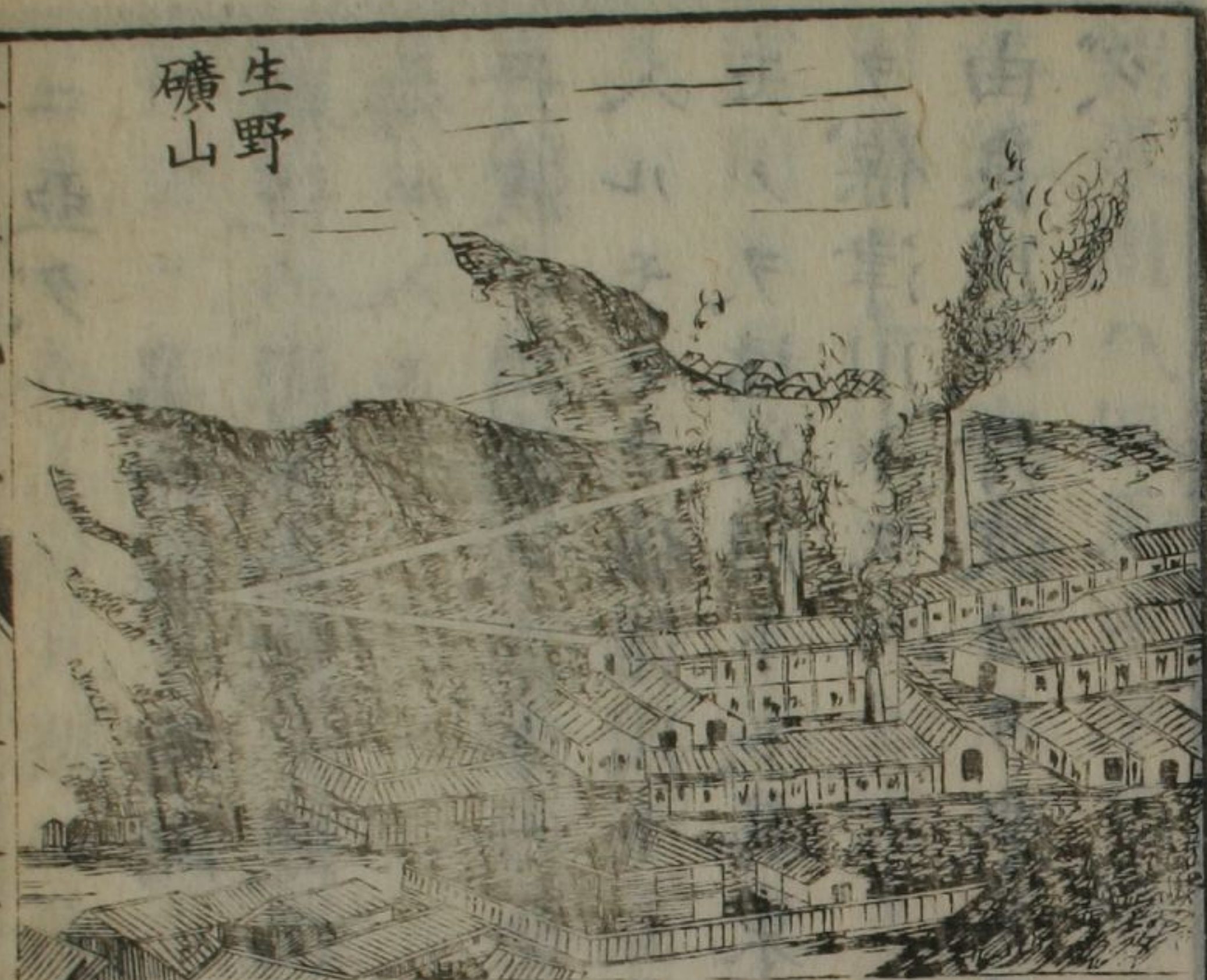


フ、岩礁碁布シテ、波浪險惡ナリ、美保寄ハ、州ノ東
北ニアル、岬ニシテ、伯耆ト相對シ、中海ノ口ヲナ
ス、

隱岐ハ、出雲ノ北ニアリ、島前島後ニ分ツ、島前ハ、
三小島知夫利島、中島、西島ノ總稱ニシテ、後鳥羽帝播遷崩
御ノ地、及後醍醐帝ノ行在所ナリ、

第三課 山

山脉ハ、南境ニ相連リテ、東西ニ奔ル、
氷山或ハ、豹山ハ、但馬ニアリ、因幡播磨ニ跨リ、其
餘脉、美作ニ及ブラ、以テ、俗ニ、四箇ノ山ト呼ブ、生



生野
礦山

野銀山ハ、但馬ノ南境ニ
アル、鑛山ニシテ、現時盛
ニ金銀ヲ採掘ス、
大山ハ、伯耆ノ中部ニ屹
立シ、中國第一ノ高山ナ
リ、本名ヲ、大神山ト云フ、
其北ニ、船上山アリ、後醍
醐帝ノ行在所タリ、
三瓶山ハ、石見ニアリテ、
出雲ニ跨ル、其高サ、大山

二亞ク、

第四課 河湖

河流ハ、源ヲ南境ノ連山ヨリ、發シ、大概北流シテ、海ニ入ル、

丹波ノ川流ハ、三方ニ分流ス、其南流シテ、播磨ニ入ルモノヲ、佐治川トシ、其北流シテ、丹後ニ入ルモノヲ、福知川トシ、其東流シテ、山城ニ入ルモノヲ、保津川トス、由良川ハ、丹波ヨリ來リ、丹後ニ入リ、由良港ニ注グ、

朝來川ハ、但馬ニアリ、源ヲ、生野銀山ノ邊ニ發シ、北流シテ、海ニ入ル、因幡ノ千代川ハ、上流ヲ、智頭川ト稱シ、下流ヲ、賀露川ト云フ、北ニ流レテ、湖山池ト合シテ、海ニ入ル、天神川ハ、伯耆ノ東部ニアリ、日野川ハ、其西部ニアリ、簸川ハ、出雲ニアリ、西北ニ流レ、宍道湖ニ注グ、江川ハ、一名ヲ石見川ト云フ、源ヲ、山陽道ニ發シ、石見ニ入リ、石見瀉ニ注グ、全道第一ノ長流タリ、

第五課 都會

丹波ニテ、較繁華ナル都會ヲ、龜岡、福知山、篠山ト

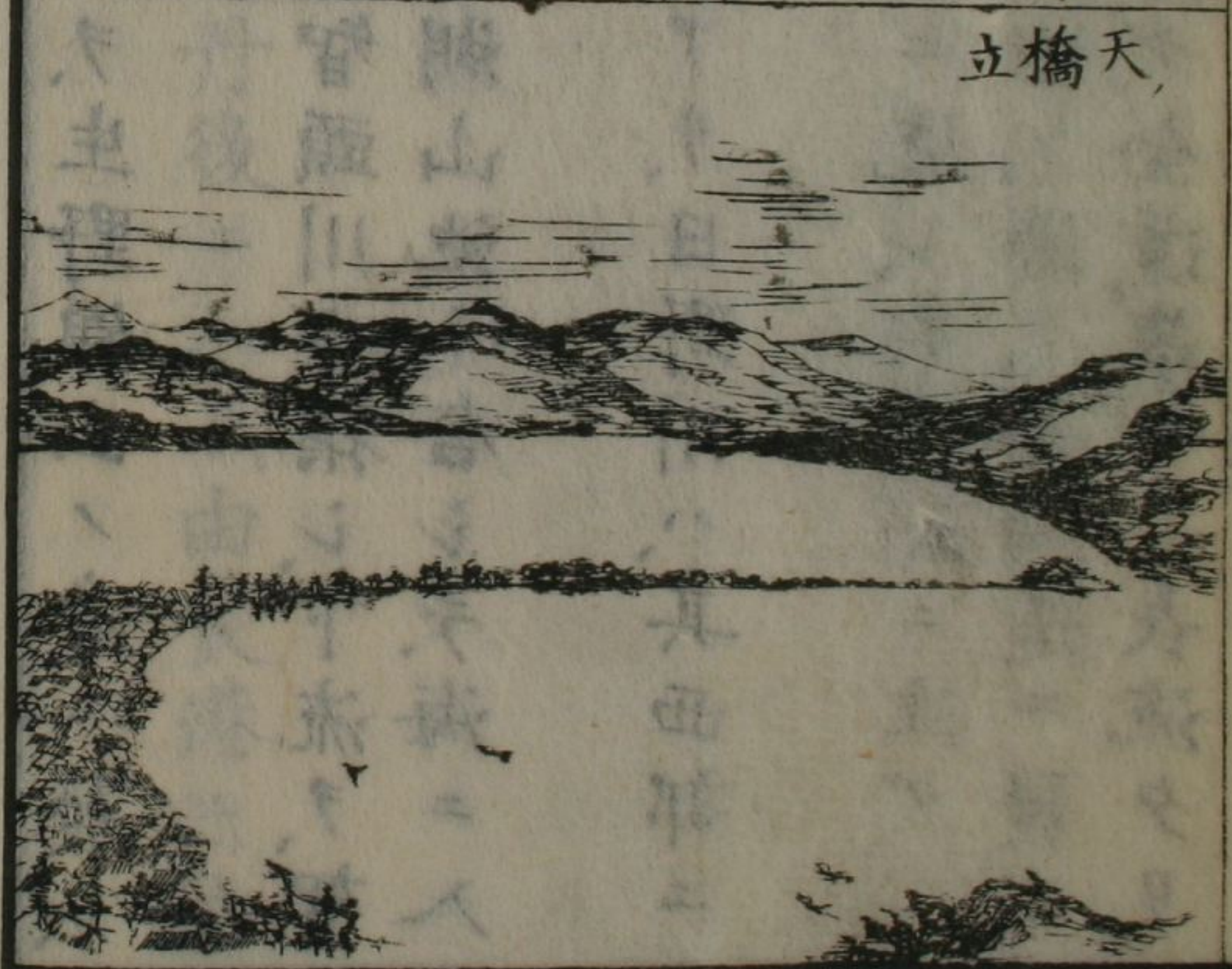
天橋立

ス、丹後ノ舞鶴舊名、田邊ハ、舞鶴

入江ノ岸ニアル都會ナリ、宮津ハ、寄泊ノ便、他港

ニ勝ルヲ以テ、著名ナリ、其北ハ、與謝海ニシテ、中

ニ一條ノ沙嘴アリ、幾株



ノ青松、其上ニ茂生ス、成相山ヨリ、之ヲ望メバ、一長橋ノ如ク、風光絶佳ナリ、之ヲ天ノ橋立、又子曰ノ岬ト云フ、本邦三勝ノ一ナリ、出石、豊岡ハ、但馬ノ都會ナリ、鳥取ハ、因幡第一ノ都會ニシテ、鳥取縣廳アリ、其位置、賀露浦ニ近接セリ、米子ハ、中海ニ濱シ、海陸輻湊ノ地ニシテ、伯耆ノ最繁華ナル都會ナリ、出雲ノ松江ハ、宍道湖ト、中海トノ間ニアリ、漕運ノ便ヲ占ムルヲ以テ、人煙ノ繁盛ナルコト、全道

第一トス、島根縣廳此ニアリ、
杵築ハ、出雲ノ西濱ニシテ、神社ヲ大國主神アリ、出
雲大社ト云フ、

濱田、津和野ハ、石見ニアリ、濱田ハ、海濱ニアリ、津
和野ハ、山間ノ都會ナリ、

第六課 氣候及產物

地形東西甚長ク、南ニ山ヲ負ヒ、北ハ海ニ濱ス
ルヲ以テ、氣候一般ニ寒冷ナレドモ、夏時炎熱ノ
候アリ、

全道產物ノ主眼ナルモノハ、丹波ノ煙草、丹後ノ

縮緬、但馬出石ノ陶器、豐岡ノ柳行李、生野銀山ノ
銀鑛等、有名ナリ、因幡、伯耆ノ白珊瑚、出雲ノ蜜柑、
石見ノ半紙等、亦世ニ著ル、

第八章 山陽道

第一課 位置及諸國

山陽道ハ、東畿内ニ境シ、北、山陰道ト、山脊ヲ分チ
テ、西ニ並行ス、美作ハ、四周山岳ニシテ、播磨、備前
備中、備後、安藝、周防ハ、南、内海ニ面シ、四國ト相對
ス、長門ハ、西端ニアリテ、南九州ト海峡ヲ隔テ、北
日本海ニ臨ム、

第二課 海岸水陸

内海ハ、山陽道ト、四國、九州トノ間ニアリ、東隅ヲ、播磨灘トシ、西ヲ、周防灘トス、中間ニ、水島灘燧灘等ハ、稱呼アリ、明石海峡トハ、播磨ノ明石ト、淡路島ト、相對セル間ヲ云フナリ、備前ノ南部ハ、半島ヲナシ、内地ト、兒島灣ヲ抱キテ、水島灘ニ向ス、阿武兔岬ハ、備後ノ南端、斜ニ、田島ニ對スル所ナリ、

屋代島ハ、周防ノ東南ニアル、大島ニシテ、其東北ハ、海水安藝ニ灣入シテ、島多シ、其内、能美島、倉橋島等ヲ、大ナリトス、早鞆瀬戸ハ、長門、豊前ノ間ニアリテ、内海ノ咽喉ヲナス、其東ヲ、周防灘トシ、西ヲ、響灘トス、潮流急ニシテ、舟行危険ナリ、

第三課 山

山脉ハ、北境ニアリテ、東西ニ横ハル、書寫山ハ、播磨ノ中央ニアリ、氷山ハ、其北ニアル、高山ナリ、那岐山ハ、美作ニアリ、高久、因幡ノ境ニ

峯ニ吉備中山ハ備中ニアリテ備前ニ跨ル國ノ
北境ハ大佐三井ノ諸山相重レリ
備後ノ中央ヨリ差北ニ偏シテ聳ユル山アリ之
ヲ御神山ト云フ此山ニ峨々タル巖石ニシテ鬼
橋ノ奇觀アリ
白木阿生等ノ諸山脉ハ安藝國ノ中央ヨリ北ニ
繞リテ石見ノ境ニ連レリ然レテ皆赭山ニシテ
樹木ヲ生ゼズ
周防ノ國境ハ諸山相連レドモ高峯アルコトナ
シ

德佐峯ハ長門ニアリ東石見ニ境シ西方便山ニ
連リ西ニ馳セ下山一名豊トナル

第四課 河流

河流ハ北方ニ發源シ大概南流シテ内海ニ注グ
加古川ハ丹波ニ發シ市川ハ但馬ニ發シ揖保川
ハ但馬因幡ノ境ニ發シ皆播磨ヲ貫キ共ニ南流
シテ内海ニ入ル
津山川下流東大川ハ美作ノ東部ヲ流シ高田川下流西大川
ハ西部ヲ流シ共ニ南流シ備前ニ入りテ一ヲ
東大川ト云ヒ又一ヲ西大川又朝日川ト云フ兒

兒灣ニ注グ、運輸灌漑共ニ便ナリ、
河邊川ハ、備中第一ノ巨川タルヲ以テ、單ニ大川
トモ呼ベリ、

備後ノ三次川ハ、西北ニ流レ、石見ニ入ル、即江川
ノ上流ナリ、

太田川ハ、一ニ八木川ト云フ、安藝ニアリ、源ヲ西
北境ニ發シ、海ニ入ル、

錦川一名岩川ハ、周防ノ北境ニ發源シテ、海ニ入ル、
岩國ノ東郭外ニ、錦帶橋橋ト云スアリ、奇巧ヲ以
テ著ル、

長門ニテ、大ナル川ヲ、阿武川トス、

第五課 都會

姫路、赤穂ハ、共ニ播磨ニアリ、姫路ハ、山陽道ノ要

路ニ當リ、市街頗盛ナリ、東部ノ明石ハ、攝津ノ須

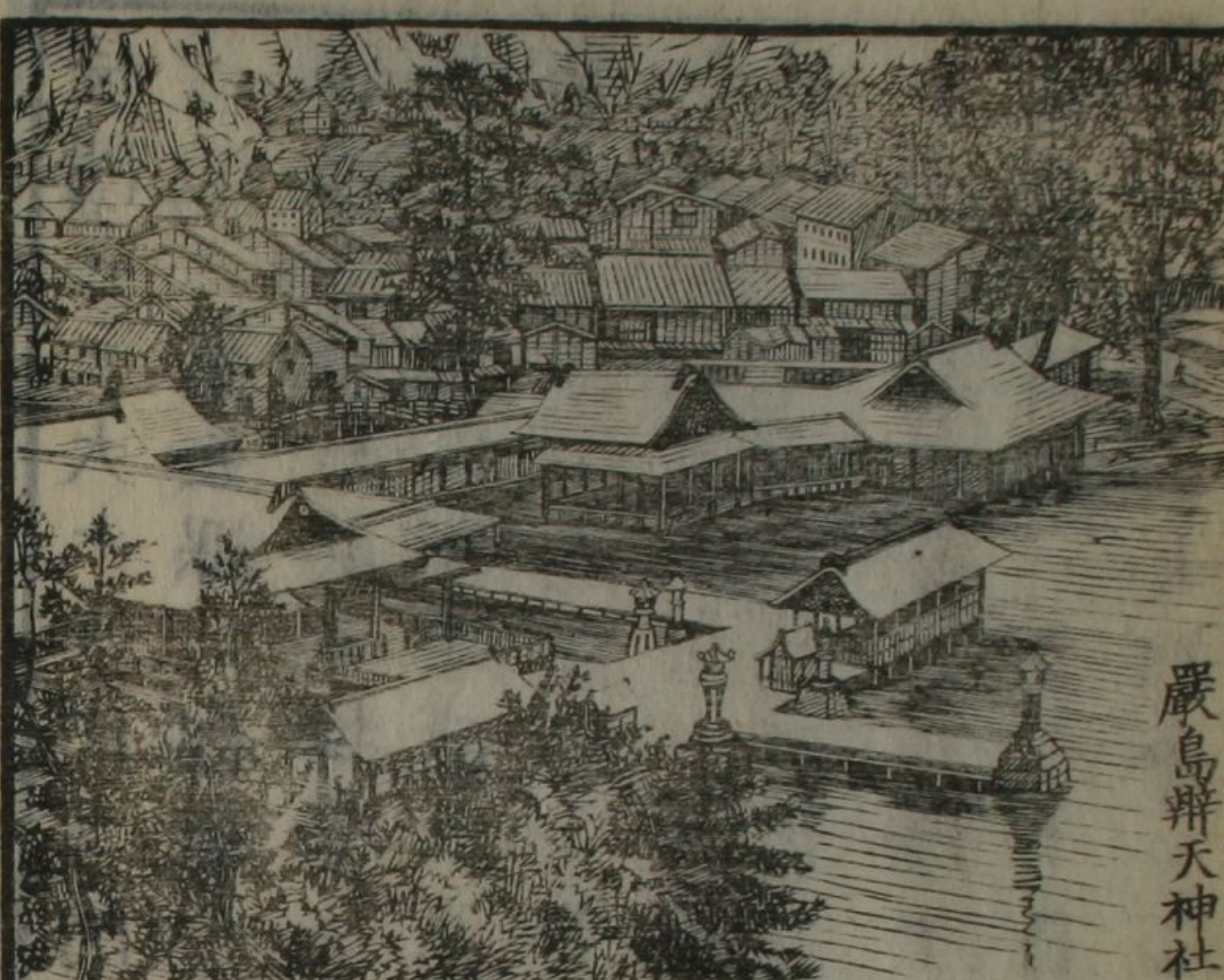
磨浦ニ接シ、南淡路ニ對シ、風光絶佳ナリ、西部ノ

室津ハ、古ヨリ名アル港ナリ、

津山ハ、美作ノ中央、津山川ニ沿ヒタル、都會ニシ

テ、國中、最繁華ナル所ナリ、

備前ノ岡山ハ、金山ヲ負ヒ、朝日川ニ沿ヒ、海ヲ擁
スル、繁華ノ都會ニシテ、岡山縣廳ノアル處ナ



嚴島辨天神社

り、福山ハ、備後ニアリ、海濱ニ臨ム、尾道、鞆津ハ、其西又南ニアリテ、共ニ碇泊ニ便ナリ、安藝ノ廣島ハ、中國第一ノ都會ニシテ、廣島縣廳アリ、其繁榮、名古屋、金澤ニ亞グ、海岸ハ、彎曲シテ、群島其前面ニ列ル、嚴島

一名、宮島ハ、其西南ニアリ、斷崖奇石、嵒嶇トシテ、青松枝ヲ交工、且、嚴島神社、結構壯嚴、勝景愛スベキ所多シ、本邦三勝ノ一ナリ、岩國、山口ハ、周防ノ都會ナリ、岩國ハ、錦川ニ臨ミ、山口ハ、連山四面ヲ圍ミ、險要ノ地ニシテ、山口縣廳アリ、三田尻ハ、市街、宮市ニ連リテ、一都會ヲナス、港ニハ、船舶輻湊セリ、萩ハ、長門阿武川ハ、右岸ニアリテ、北海ノ濱ニ接ス、赤間關下關、又馬關ハ、早鞆瀬戸ハ、西北ニアリ、西道、往來ノ要地ニシテ、船舶常ニ多ク、市街繁盛ナ

リ、此地ハ平氏ノ滅亡セ
以、檀浦ニ接ス、又安徳帝
ヲ奉祀スル赤間宮アリ、

第六課

氣候及

産物

閣下

地勢、山陰道ト反シ、長門
一國ヲ除クノ外、皆北境
ニ山ヲ負ヒ、地面漸南ニ
低ク、海岸ハ、島灣多キヲ
以テ、氣候、寒暖宜キヲ得



夕リ、八由身ノ武知ヲ以テ、
全道ノ産物ニテ、三備ノ疊表ハ、輸出殊ニ盛ニシ
テ、備後ノ産ヲ第一トス、備後表ノ名ハ、人ノ普ク
知ル所ナリ、播磨ノ姫路、革赤穂鹽、龍野醬油、美作
ノ雲齋織、備前ノ伊部陶器、長船刀劍、備中周防ノ
紙、備後ノ保命酒、安藝ノ牡蠣、長門ノ赤間硯等、聲
譽アリ、

第九章 南海道

第一課 位置及諸國

畿内ノ南方ニ、斗出セル地方ト、四國島ト、淡路ノ

一、小島トヲ合シテ、南海道ト稱ス、本州ニアル一國ヲ、紀伊トシ、四國島ニアルヲ、阿波、讃岐、伊豫、土佐ノ四國トシ、又淡路島ハ、別ニ一國ヲナセリ、故ニ、南、太平洋ニ面シ、東紀伊ノ地ハ、畿内ト東海道トニ接シ、淡路ノ地ハ海中ニ孤在シ、又四國ノ地ハ、北、山陽道、西、西海道ト、海ヲ隔テ、相對ス、

第二課 海岸水陸

潮岬ハ、紀伊ノ南端ニアリ、其東ノ海上ヲ、熊野浦ト云フ、淡路ハ、由良ノ海峡ヲ以テ、紀伊ト相隔ツ、此間ニ

友島アルニヨリ、或ハコレヲ友島海峡ト云フ、

蒲生田岬ハ、阿波ノ東端ニアリ、紀伊ノ比井岬日舊

岬ト相對ス、其北ノ内海ハ、即、紀伊海ニシテ、淡路

島、其北ニ當リ、島ノ西端ハ、阿波ト相對シテ、海水

ヲ扼ス、故ニ、潮流相逼リテ、二個ノ渦ヲナス、謂ハ

ユル、大鳴門、小鳴門是ナリ、舟行甚危ク、潮候ヲ察

セザレバ、容易ニ、航過スルコト能ハズ、

讃岐ノ海上ニハ、數多ノ小島アリ、最大ナルモノ

ヲ、小豆島トス、

伊豫ノ海岸ハ、甚長ク、處々ニ著シキ岬角アリ、佐

新撰地誌 卷之二

田岬及梶取岬宮崎ヲ其最名アルモノトス梶取岬ハ州ノ北端ニシテ其西ヲ硫黄灘ト云フ佐田岬海中ニ斗出スルコト九里許ニシテ其南ヲ限ル

土佐ハ室戸蹉陀一名足ノ二岬海中ニ突出シ東西相對シテ一大灣ヲ擁ス此灣ハ古陸地ナリシガ今ハ變ジテ海トナリシ所ナリ

第三課 山

紀伊ニテ山嶺ノ主眼ナルモノ三アリ其一ハ八鬼山ニシテ高ク且大ナリ其二ハ大塔峯ニシテ

州内第一ノ峻峯ナリ其山趾ハ延亘スル所殆ト十里又那智山アリ有名ノ瀑布此山ニ懸ル其三ハ高野龍門諸山ニシテ高野山上ニ有名ノ巨刹アリ金剛峯寺ト云フ雲邊寺山ハ阿波ニアリ讚岐伊豫ニ跨ル其脉土佐ノ境ニ浴ヒテ中央ノ大嶺ニ連ル八栗山ハ讚岐ニアリ一名ヲ五劍山ト云フ山頂岩石ノ狀舊五劍ヲ植エタルガ如シ故ニ此名アリ其脉西北ニ延キテ屋島ノ山嘴トナル此地ハ源平二氏ノ古戰場ニシテ安德帝内裡ノ址アリ

伊豫ト、土佐トノ州境ハ、特ニ山多ク、石槌伊豫トノ高根、稱瓶森等ハ、最高キモノナリ、中ニ就キテ、石槌ハ、四國ノ主山ニシテ、其脉、西南ニ綿亘ス、九月ノ末ニ至レバ、山頂雪ヲ冠スト云フ、土佐ハ、山嶺相重リテ、平野少ク、山嶺ノ主眼ナルモノハ、矢筈山ナリ、

第四課 河

紀伊川、在田川、白高川、熊野川等ハ、紀伊ニ在リテ、大ナルモノナリ、紀伊川上流、吉野川、熊野川上流、津川、共ニ源ヲ大和ニ發シ、熊野川ハ、熊野浦ニ注ギ、紀

伊川ハ、紀伊海ニ入ル、吉野川ハ、土佐ノ山谷ヨリ發シ、東流シテ、阿波ヲ貫キ、海ニ入ル、沿岸ハ、地味藍ニ適ス、面河川ハ、伊豫内地ノ山間ニアリ、東南ニ流レテ、土佐ニ入り、仁淀川トナル、四萬十一名、渡川、仁淀古名、神河、物部、吉野ノ四川ハ、皆土佐ニアリ、

第五課 都會

紀伊ノ和歌山ハ、和歌山縣廳ノアル、都會ニシテ、北ニ、紀伊川ヲ帶ビ、南ハ、和歌浦ニ接ス、和歌浦ハ、

又、明光浦ト稱シ、風光ノ勝地ニシテ、我邦三勝ニ
 亞グベキモノトス、新宮ハ、熊野川ノ邊ニアリ、人
 口多ク、一方ノ都會ナリ、
 阿波ノ德島ハ、吉野川ノ口ニアリ、商船四方ヨリ
 集ヒ來リ、通商盛ニシテ、四國第一ノ都會タリ、瀛
 船常ニ大阪神戸等ト、相往來ス、德島縣廳亦此ニ
 アリ、
 高松ハ、讃岐中第一ノ都會ニシテ、中國ノ間ヲ航
 スル船舶ハ、多クコノ地ニ寄泊ス、白峯ハ、高松ハ
 西ニアリ、崇徳帝ヲ祀ル、丸龜ハ、又其西ニ在リ、象



頭山一名琴平山、其南ニ峙
 千、山上ニ琴比羅神社大
 貴神ヲ祭リ崇
 徳帝ヲ合祀ス、アリ、賽客
 常ニ多シ、
 松山ハ、伊豫中部ノ都會
 ニシテ、愛媛縣廳アリ、市
 街繁榮ナルコト、國中第
 一トス、近傍ニ道後ノ温
 泉アリ、古ヨリ有名ナリ、
 北部ノ今治ハ、舊城市ナ

新撰地誌

卷之三

リ、南部ノ宇和島ハ其港佳良ニシテ市街モ亦盛ナリ、高知ハ土佐ニアリ、鏡川ノ流ヲ帶ビ、海ニ近接シテ形勢好ク市街繁盛、高知縣廳アリ、海岸ニ浦戸港アリ、運輸殊ニ便ヲ得タリ、

第六課 氣候及産物

海岸ハ海灣岬島頗多ク内地ハ山峯ニ富三、氣候稍異ナル處アレドモ山陽道ニ比スレバ一般ニ暖熱ナリ、

全道海産甚多シ、紀伊土佐ハ鯨漁盛ニシテ土佐

ノ鱈節最佳品ナリ其他、紀伊ノ蜜柑蠟燭阿波ノ藍齋田鹽土佐ノ半紙珊瑚讚岐ノ砂糖皆名聲アリ、

第十章 西海道

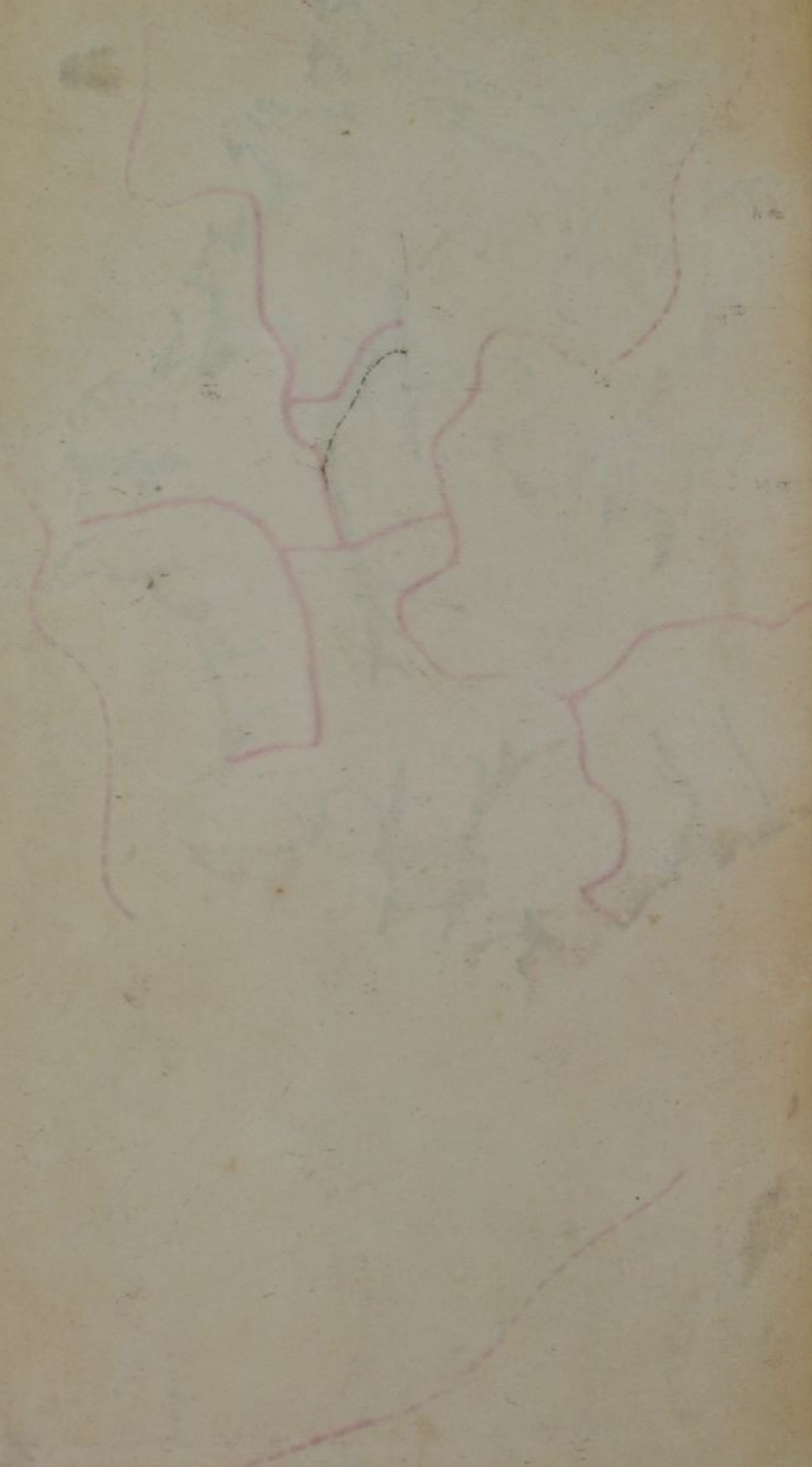
第一課 位置及諸國

西海道ハ山陽南海兩道ハ西南ニアリ、筑前筑後豊前豊後肥前肥後日向大隅薩摩ノ九州ハ一大島ヲナス九州是ナリ、東南ハ太平洋ニシテ西北ハ支那海日本海ナリ、壹岐對馬ハ各一島ヲナス、對馬ハ朝鮮ヲ距ル數十里ノ三、

第二課 海岸水陸

鐘岬ハ筑前ノ北ニ斗出シテ、女海灘ト響灘トノ境ヲナス、其西南志賀ノ砂嘴アリ、細ク海中ニ亘ルコト、凡三里、小島ナリ、豊前ノ北岬ヲ門司關ト云フ、長門ノ赤間關ト、近ク相對シ、早鞆海峡ヲ挾ム、

豊後ノ佐賀關ハ、遙ニ伊豫ノ佐田岬ト相對ス、其南ハ日向灘ニ向テ、東極ヲ關崎一名地ト云カ、國東郡ハ北端ニ出ヅ、其間ヲ硫黄灘トス、野母寄ハ、肥前ノ南端ニ斗出シ、東西ニ半島アリ、



西海道及琉球諸島之圖



西海道及琉球諸島之圖

尺縮一分百二十
五里
五里
五里
五里
五里

琉球諸島

尺縮一分百二十
五里
五里
五里
五里
五里

西ノ半島ハ、鯛浦大村ヲ抱キ、東ノ半島ハ、島原ニ
 シテ、筑紫海沖有明ヲ擁ス、五島平戸島、肥前ノ西ニ
 アリテ、天草島ハ、南ニアリ、日向ノ南端ハ、都井岬
 斗出シ、大隅ノ火寄ト、相對シテ、一ノ海灣ヲナス、
 コレヲ内浦ト云フ、
 大隅、極南ノ岬ヲ、佐多ト云フ、薩摩ノ開聞岬ト、相
 對シテ、灣口ヲナス、其灣ヲ、鹿兒島灣トス、中ニ一
 島アリ、櫻島ト云フ、
 開聞岬ハ、薩摩ノ極南ニシテ、野間岬ハ、州ノ西ニ
 斗出スル所ナリ、上中下ノ甌島ハ、國ノ西ニアリ、

種子島、屋久島ハ、大隅ノ南ニアリ、其西南ニ、七島
アリ、海上ヲ七島灘ト云フ、
大島ハ、七島ノ南ニアリ、舊琉球ニ屬ス、即古ノ奄
美島ニシテ、喜界島、徳ノ島、沖永良部島、與論島等
之ニ屬ス、

壹岐ハ、肥前ノ北方、海中ニアリ、對馬ハ、壹岐ノ北
ニアリ、上下二島ニ分ツ、北端ノ鰐浦又、鬼寄ト云スハ、遙
ニ、朝鮮ト相對シテ、煙火相望ムベシ、

第三課 山

筑前ノ南境ニ、連レル山アリテ、肥前ノ國ト境ヲ

分ツ、高良山一名、不濡山、又高牟禮山ハ、筑後ノ中央ニ峙テ、支

分シテ、東境ニ連レリ、

豊前ノ西南隅ニ、一ノ山アリ、英彦山ト云フ、犬岳

ハ、州ノ中央ニ峙テ、鹿嵐山ハ、東ニ秀ツ、

豊後ノ國境ニハ、九州ノ脊骨タル、大山アリ、日向

ノ境ニ、祖母岳アリ、東ニ延キテ、傾山等トナリ、主

トシテ、日向ノ境ヲ限ル、豊後ノ境ニハ、九重山ア

リ、由布、鶴見、文珠モ、亦豊後ノ北方ニ峙ツ、山ナリ、

肥前ノ多良岳又、太郎作ルハ、海濱ニ峙ツ、脊振山ハ、東

北ノ境ニアリ、東南隅ノ半島ニ、噴火山アリ、温泉

岳ト云フ

肥後ノ東境ハ、重嶺攢峯相連リ、人跡ノ達セザル所多シ、此重厚ナル山彙ノ中、特ニ名アルハ、阿蘇ノ噴火山ニシテ、又涌蓋、白鳥、江代等ノ高峯アリ、米良、五家ノ二郷ハ、コノ山中ニアリ、往時、他郷ト交通ヲ絶テリ、明治五年、米良十四村ヲ、日向ニ屬セシム日向ノ霧島山ハ、噴火山ニシテ、大隅ニ跨ル、東西二岳ニ分ツ、大隅ノ中央ニハ、霧島山ヨリ、續キタル一大嶺アリ、高隈垂水、御岳等ノ諸山、此間ニアリ、

薩摩ハ、亦國內山多ク、肥後トノ境ニ、連山脉ヲ連ス、紫尾山、最著名ナリ、又國ノ中央ニ、互リ、御岳、冠岳等ノ高山アリ、開聞岳薩摩野間岳ハ、南或西南ノ海岸ニ、獨立セル高峯ナリ、富士八重岳ハ、屋久島ニアリ、高峻ニシテ、四時雪ヲ戴ケリ、

第四課 河

河流ハ、内地ノ山谷ニ發シ、四方ニ分注ス、筑前ノ遠賀川ハ、上流ヲ、嘉麻川ト云フ、舟運ヲ通ズル處、十餘里ニ及ビ、灌漑ノ利甚大ナリ、

筑後川川千年ハ九州第一ノ大川ニシテ、筑紫二郎ノ名アリ、水源遠ク、豊後、肥後ノ山間ヨリ發シ、筑後ノ北邊ヲ縈廻ス、兩岸ハ沃野甚廣シ、山國川及今川ハ、豊前ニアリ、其源共ニ彦山ヨリ發ス、山國川ノ上流ニ、耶馬溪アリ、其溪間ニ、洞門、奇石等アリテ、數里ノ間、山水ノ景秀絶愛スベシ、豊後ノ大野川、大分川ハ、共ニ東北ニ流レテ、海ニ入リ、日田川川三隈ハ、西流シテ、筑後川ノ上流ヲナス、肥前ノ武雄川ハ、東流シテ、海ニ入リ、松浦川ハ、北

流シテ、海ニ入ル、肥後ノ巨川ヲ、球摩川、緑川、菊池川、白川トス、球摩川ハ、人吉ヨリ、下流十五六里、舟楫ヲ通ズベシ、緑川、白川ハ、中流以下ハ、平野ノ間ヲ環流シ、灌漑ノ利亦多シ、菊池川ハ、北部ノ衆水ヲ集メテ、海ニ入ル、日向ノ川ハ、五箇瀬美々津一名一瀬、瀬一名一瀬ニ大淀一名赤、江川、赤ノ四川、最大ナリ、皆三十里ニ殆キ、長流ニシテ、舟楫灌漑ノ便アリ、中ニモ、大淀川ハ、國中第一ノ巨流ナリ、皆東シテ日向灘ニ入ル、

大隅ノ新川古名天ハ源ヲ霧島山中ニ發シ西南ニ流レテ鹿兒島灣ニ入ル肝付川境一名ハ高隈山ヨリ發源シ東南ニ流レテ海ニ注グ川内川ハ水源日向大隅ノ山間ヨリ發シ薩摩ヲ貫キ西流シテ京泊ヨリ海ニ入ル四十六里ノ長流ナリ

第五課 都會

筑前ノ博多ハ古來有名ノ港ニシテ船舶常ニ湊集ス其市街東ハ箱碁ニ連リ西ハ福岡ニ接ス九州ニアリテ屈指ノ都會ナリ福岡ニ福岡縣廳アリ

リ箱碁ニハ八幡宮應神天皇ヲ祭リ仲哀天アリ

其東ニ近キ香椎ニハ香椎ノ宮神功皇后ヲ祭リ

祀ヲ合アリ宰府ハ往時太宰府ヲ置キシ所ニシ

テ又菅公ノ廟アリ

久留米柳川ハ筑後ノ兩都會ナリ

豊前ノ小倉ハ下ノ關ト海路三里ヲ隔ツ九州ノ咽喉ニシテ繁華ノ地ナリ中津之ト伯仲ス

豊後ノ大分ハ府内ト稱ス人民輻湊ノ地ニシテ

大分縣廳アリ

長碁港五港ハ肥前ニアリ丘陵環繞シテ一長灣

ヲナス、灣内水深ク、波穩ニシテ、碇泊ニ便ナリ、寛永年中、支那、和蘭ノ通商貿易ヲ許シ、夙ニ繁盛ヲ極ム、製鐵所、造船局ノ設立ノ如キ、此港ヲ初トス、長崎縣廳アリ、佐賀ハ、國中繁盛ノ都會ニシテ、佐賀縣廳アリ、唐津、大村、コレニ亞グ、名古屋

長崎港



耶ハ、松浦瀉ニ臨ミ、壹岐對馬へ渡ル要津ナリ、肥後ノ熊本ハ、白川ノ北岸ニアル、大都會ニシテ、熊本縣廳アリ、其城郭ハ、加藤清正ノ築ク所ニシテ、堅固ヲ以テ名アリ、近時、西南ノ役ニ、官軍固守シテ、遂ニ賊徒ノ銳鋒ヲ挫折セシ所ナリ、其他、宇土、八代ノ都會アリ、日向ニテ、第一繁華ノ都會ヲ、宮崎トス、宮崎縣廳アリ、内地ノ都城、海濱ノ高鍋、延岡等、之ニ次グ、大隅ニ、國府、加治木アリ、薩摩ノ鹿兒島ハ、甲突川ニ浴ヒ、内海中ノ一灣ニ

臨三、船舶ヲ繫グニ宜シク、市街繁盛ニシテ、前面
ニハ、櫻島アリテ、風景亦絶佳ナリ、
對馬ノ嚴原ハ、元府中ト稱ス、壹岐ノ勝本ト相對
シ、船舶ノ碇泊スル所ナルヲ以テ、稍繁盛ナリ、
浦ハ、朝鮮ノ釜山浦ト相對スル港ナリ、

第六課 氣候及産物

全道南方ニ位スルヲ以テ、氣候暖熱甚シトス、
産物ハ、礦物ニ、肥前筑前ノ石炭アリ、兩筑、肥前及
薩摩ノ蠟、肥後ノ米穀、薩摩大隅ノ煙草、世ニ名ア
リ、筑前ノ博多織、豊前ノ小倉織、筑後久留米ノ木

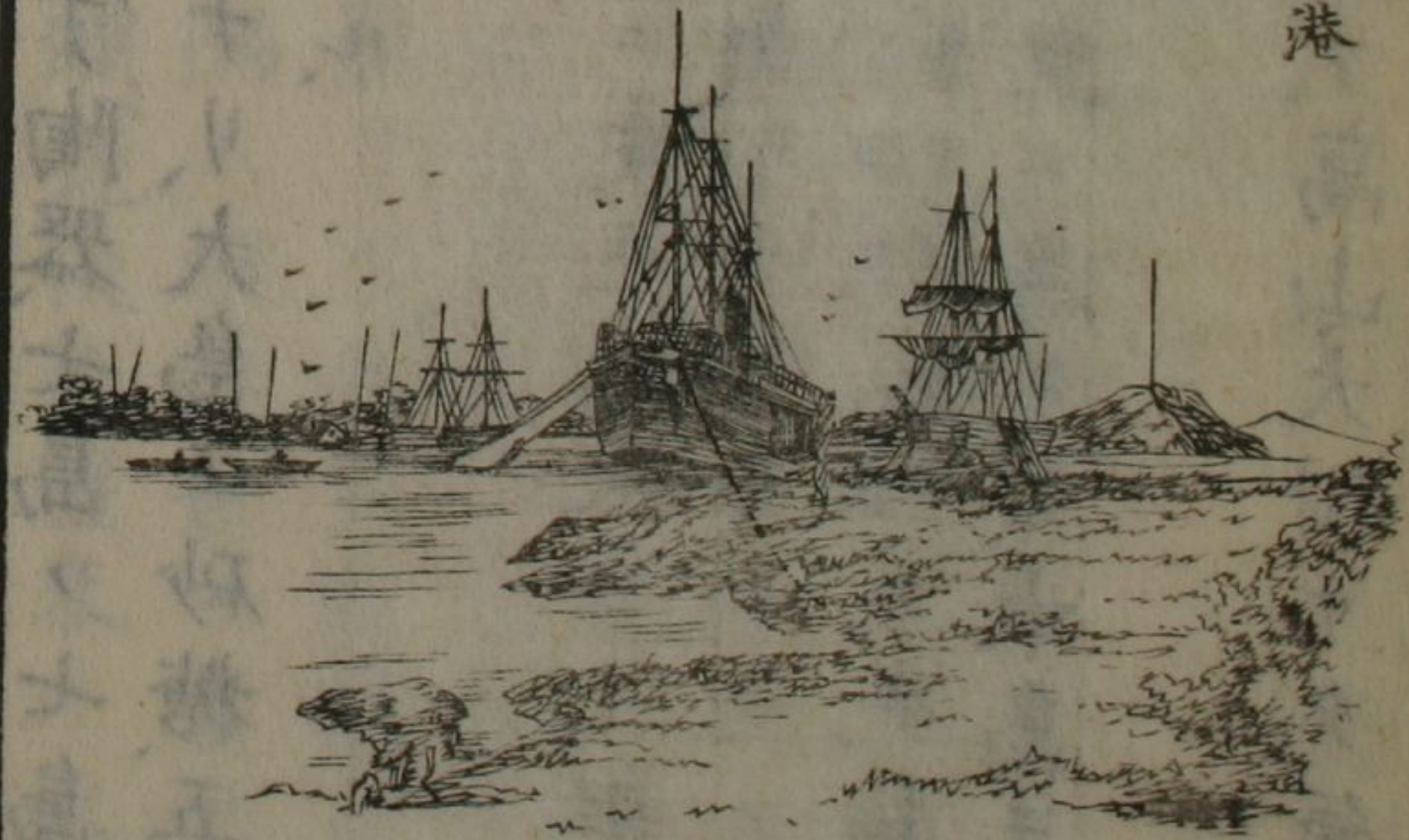
綿、總肥前ノ有田、伊萬里及薩摩ノ陶器、七島ノ七島
席ハ、製造品ノ良好ナルモノナリ、大島ノ砂糖、五
島ノ鯨、鰯、薩摩ノ鰹節等、亦著ル、

琉球

琉球ハ、薩摩諸島ノ餘支、西南ニ走り、起伏シテ、群
島ヲナスモノナリ、九州ノ西南、凡二百七十里ノ
間ニ、散布ス、宮古島ハ、重山島石垣島、入表ヲ、先島
ト稱シ、臺灣島ヲ距ル、二十餘里ニ過ギズ、本島ヲ
沖繩島トス、最大ナリ、
地形東北ヨリ、斜ニ西南ニ延ブ、高山大川ナク、氣

候炎熱ニシテ、霜雪降ラ
 ズ、草木、毎ニ繁茂シ、稻穀
 再熟スルノ地アリ、
 沖繩島ノ一群中、其顯著
 ナルモノハ、沖繩島ニシ
 テ、海岸ニ那覇ノ港アリ、
 島中唯一ノ港ナリ、又首
 里ハ、一ノ丘上ニアリ、舊
 琉球王ノ都城ニシテ、今、
 沖繩縣廳アリ、

那覇港

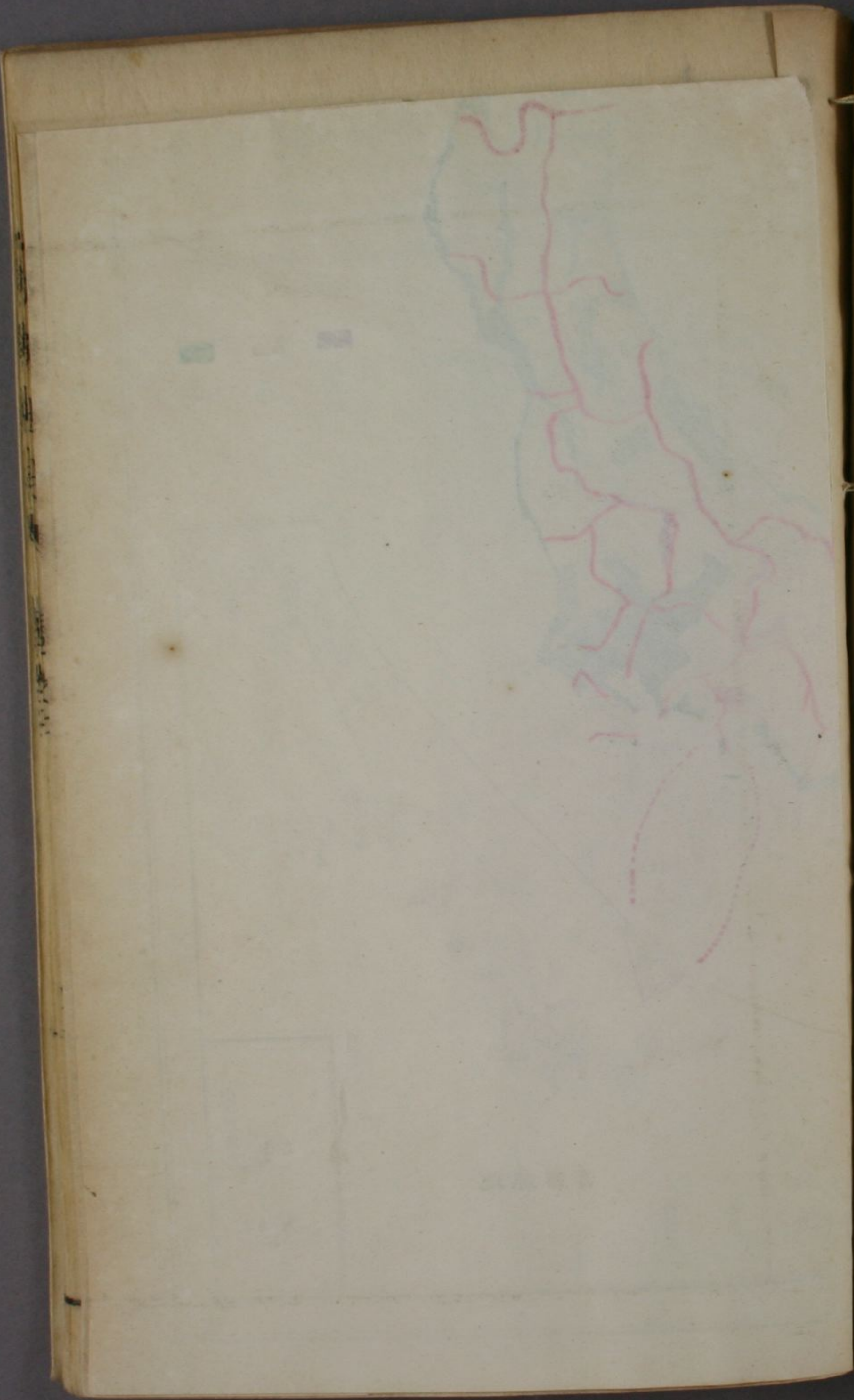


物産ハ、砂糖ヲ第一トシ、上布、紬、頗名アリ、其他、總
 織、芭蕉布、泡盛酒、鹽豚、疊表、甘薯、朱塗物等ヲ産シ、
 海ヨリ、瑤瑁、鯨ヲ出ス、

附説

此國ノ始祖ヲ、天孫氏トス、文武帝ノ時、始テ我朝
 ニ入貢シ、爾來、久シク藩屬タリシガ、明治十二年
 ニ至リ、全ク我邦ニ、附屬スルヲ以テ、其王ヲ華族
 ニ列シ、縣ヲ置キ、國ヲ治ム、

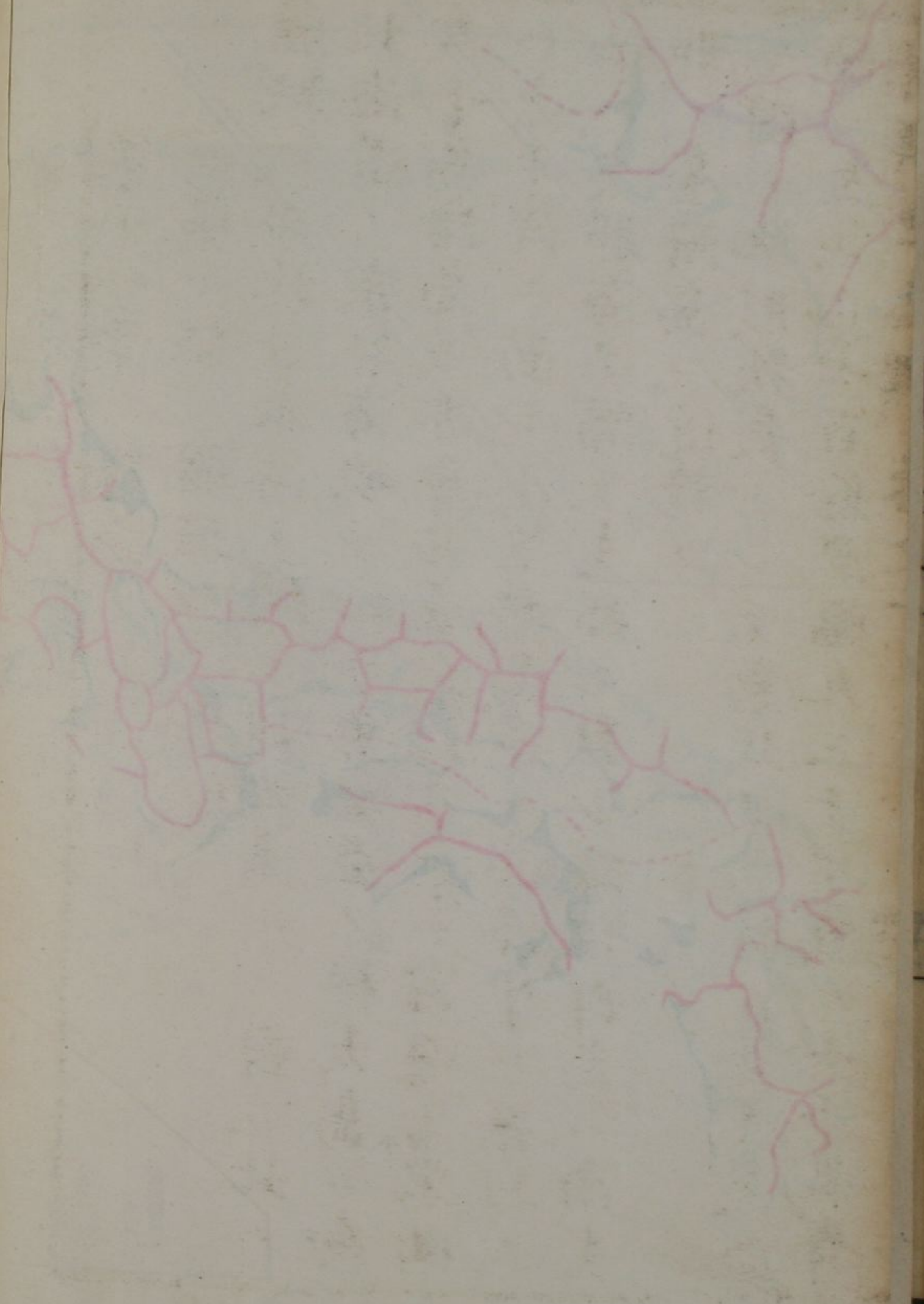
一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...
 十一、...
 十二、...
 十三、...
 十四、...
 十五、...
 十六、...
 十七、...
 十八、...
 十九、...
 二十、...
 二十一、...
 二十二、...
 二十三、...
 二十四、...
 二十五、...
 二十六、...
 二十七、...
 二十八、...
 二十九、...
 三十、...
 三十一、...
 三十二、...
 三十三、...
 三十四、...
 三十五、...
 三十六、...
 三十七、...
 三十八、...
 三十九、...
 四十、...
 四十一、...
 四十二、...
 四十三、...
 四十四、...
 四十五、...
 四十六、...
 四十七、...
 四十八、...
 四十九、...
 五十、...



日本全圖



新撰地誌 卷之二



第十一章 總論

第一課 疆域

疆域ハ、西北、日本海ヲ隔テ、朝鮮、滿州ニ對シ、北ハ、北海道ノ宗谷海峡ヲ以テ、魯西亞ノ樺太島ニ向ヒ、千島諸島モ、亦魯西亞ノかむさつかニ密邇ス、東南ハ、太平洋ニ面シ、小笠原島、遙ニ其洋中ニ羅列ス、西ハ、支那海ヲ隔テ、支那ニ對シ、琉球群島ハ、南支那ノ臺灣島ニ、近接ス、

全國ノ地形、狹長ニシテ、東北ヨリ斜ニ延キテ、西南ニ至ル、凡七百餘里、幅凡三十里、或ハ六十里、齊

親指其言 表之二
シカラズ、面積二萬四千七百九十四方里ナリ、

第二課 區劃

全國ヲ大別シテ畿内、八道及琉球トシ、又之ヲ分
チテ、八十五國トシ、更ニ之ヲ小別シテ、八百
郡トス、施政ノ便ヲ計リ、三府四十一縣ト、北海
道廳トヲ設ケ、或ハ數國ヲ統治シ、或ハ一國ヲ分
轄ス、其廣狹一ナラズ、又郡區役所ヲ置キ、町、村ヲ
管ス、
全國ノ戶數、七百七十一萬。二百二十一戸、
年十八
調ニシテ、其人口、三千七百八十六萬八千九百八

十七人、十八年ナリ、

畿内 五國

山城 大和

河内

和泉

攝津

東海道 十五國

伊賀 伊勢

志摩

尾張

三河

遠江

駿河 甲斐

伊豆

相模

武藏

安房

上總 下總

常陸

東山道 十三國

近江 美濃

飛彈

信濃

上野

下野

磐城 岩代

陸前

陸中

陸奥

羽前

新撰地理志 卷之二

羽後

北陸道 七國

若狹 越前 加賀 能登 越中 越後

佐渡

北海道 十一國

渡島 後志 石狩 天鹽 北見 膽振

日高 十勝 釧路 根室 千嶋

山陰道 八國

丹波 丹後 但馬 因幡 伯耆 出雲

石見 隱岐

山陽道 八國 備前 備中 備後 安藝

播磨 美作

東周防 長門

南海道 六國 阿波 讚岐 伊豫 土佐

紀伊 淡路

西海道 十一國 筑前 筑後 豐前 豐後 肥前 肥後

日向 大隅 薩摩 壹岐 對馬

琉球 一國

第三課 海岸水陸

新撰地理志 卷之二 四十四

島ニ函館港アリ、コレヲ合セテ、五港ト云フ、皆外國トシ、互市場ニシテ、海外商船ノ至ル所タリ、中ニ就キ、貿易ノ盛ナル、横濱港ヲ以テ、第一トス、次ニ、攝津ノ大阪港、伊勢ノ四日市港、志摩ノ鳥羽港、伊豆ノ下田港、陸前石巻港、陸奥ノ青森港、越前ノ敦賀港、能登ノ七尾港、長門ノ下關港、薩摩ノ鹿兒島港等、亦皆繁盛ノ港ニシテ、賈舶常ニ輻湊セリ、其他碇泊ニ便ナル小港、屈指ニ暇アラズ、
第四課 山脉
方向ニ由テ、山脉ヲ分ツトキハ、西南ヨリ、東北ニ

走ルモノト、北又ハ西北ヨリ、南又ハ東南ニ走ルモノト、ニアリ、二脈ノ相合スル處ニハ、著明ノ高山存在シテ、其山ハ、大概火山ナリ、而シテ、二脈ノ相合スル處、五個アリ、其一ハ、北海道ニアリテ、一脈ハ、千島ヨリ、又一脈ハ、樺太ヨリ來リ、相合スルモノナリ、北海道ノ中央ニアル、十勝石狩夕張等ノ峻嶺ハ、則是ナリ、其二ハ、一脈ハ、東北奥羽ヨリ、南ニ走リ、又一脈ハ、西南ヨリ來ル、中國一帯ノ山脈ニシテ、其合スル處ハ、甲斐信濃越後上野ニ跨レル峻嶺ニシテ、富士、淺間、白根ノ諸山アリ、其三

ハ、畿内及北陸ニアリテ、中國ノ山脈ト、紀伊ヨリ
 加賀ニ延キタル、一帯ノ山脈ト、相合スル處ニシ
 テ、加賀ノ白山、紀伊ノ大臺原山等ナリ、其四ハ、伊
 豫土佐ノ境ヨリ、北ニ走リ、伯耆因幡ニ至レル、一
 帯ノ脈ト、中國ノ山脈ト、相合スル處ニシテ、四國
 ニ於テハ、雲邊山、石槌山、伯耆ニ在テハ、大山等ノ
 高山アリ、其五ハ、九州ニアリテ、一脈ハ、琉球諸島
 ヨリ、北ニ伸ビ、九州ヲ經テ、周防石見、隱岐ニ至レ
 ルモノト、東方ニ伸ビタル、中國及四國ノ脈ト、相
 合シ、石見、豊後、日向ノ間ニ、峻岳ヲナシ、肥後ノ阿

蘇山、日向ノ霧島山、最有名ナリ

第五課 河湖

全國ノ地形、幅狭キガ故ニ、大河少シ、先、北海道ノ
 石狩川ヲ以テ、最大トス、東海、北陸ノ巨流ハ、皆源
 ヲ東山道ニ發ス、其東流スルモノヲ、利根川トナ
 シ、其北流スルモノヲ、信濃川トシ、其南走スルモノ
 ノヲ、天龍川トシ、其西走スルモノヲ、木曾川トス、
 畿内ニ淀川アリ、源ヲ、近江ノ琵琶湖ニ發ス、其他、
 東山道ニ北上川アリ、山陰道ニ江川アリ、南海道
 ニ吉野川アリ、西海道ニ筑後川アリ、皆巨川トス、

湖水ノ最大ナルモノヲ近江ノ琵琶湖トス湖面廣濶風光清美漁船常ニ來往ス之ニ亞ギテ著名ナルモノハ常陸ノ霞浦岩代ノ猪苗代湖羽後ノ八郎瀉出雲ノ宍道湖下總ノ印幡沼信濃ノ諏訪湖遠江ノ濱名湖等ナリ其餘湖沼甚多シト雖皆其兒孫ノ如シト云フ

第六課 都會及勝地

全國都會ノ大ナルモノハ武藏ノ東京山城ノ京都ヲ二京トシユレニ攝津ノ大阪ヲ加ヘ三府文三都ト稱ス其他尾張ノ名古屋加賀ノ金澤安藝

ノ廣島武藏ノ橫濱攝津ノ兵庫阿波ノ德島紀伊ノ和歌山陸前ノ仙臺薩摩ノ鹿兒島筑前ノ福岡越中ノ富山和泉ノ堺長門ノ萩讃岐ノ高松越前ノ福井肥後ノ熊本等殷賑ノ都會ナリ其他四萬以下一萬以上ノ人口アル都會其數九十二下ラズ勝地ハ安藝ノ嚴島宮島ト丹後ノ天ノ橋立陸前ノ松島之ヲ本邦ノ三景ト稱ス風景絶佳ノ地ナリ其他紀伊ノ和歌浦播磨明石浦攝津ノ須磨浦駿河ノ三保松原等有名ニシテ全國到ル處名勝ノ地甚多シ

第七課 氣候及產物

我邦氣候甚熱カラズ、又甚寒カラズ、概中正ナリ、但北陸、東山、二道ノ北部、及北海道ハ、寒氣嚴烈ニシテ、雪多ク、琉球、及小笠原島ハ、頗炎熱ナリ、其他ノ土地ニ在リテハ、盛暑九十五六度ヨリ八十四五度ノ間ニアリ、極寒三十四五度ヨリ十七八度ノ間ニアリ、

國內ノ土質、大概肥沃ニシテ、物産ニ富シ、農業殊ニ盛ナリ、礦物ハ、金、銀、銅、鐵、鉛、石炭、及建築石材多ク、植物ハ、杉、松、檜、檀、竹、及溫帶ノ果樹多シ、米、麥、豆

其他ノ穀物ハ、到ル處トシテ、之ヲ産セザルハナシ、又陸ニハ、牛、馬、羊等蕃息シ、水ニハ、松魚、棘鬣魚、大口魚、金鎗魚、鯉魚等ハ、食ニ供スベキ、魚類多ク、製造物ハ、東京、西京、能代、輪島、會津等ノ漆器、瀬戸、九谷、清水ノ磁器、上州、伊達、信太、上田、松代ノ蠶種、生絲、京都、上州ノ織物、山城、遠江、駿河ノ茶、美濃、土佐ノ紙、東京、金澤ノ銅器、池田、伊丹、灘尾、張ノ酒等ヲ最著名ノ物産トス、

新撰地誌附錄

第二篇日本誌終

新撰地誌附錄 日本第一表

日本國位置		全國廣袤		玄界灘		本牧岬	
東經	十六度四十七分	全國	自五十里至四百九十九里	日向灘	日向一帶海	野島崎	全
西經	十七度	本地	自五十一里至三百三十三里	石見灘	石見一帶海	觀音崎	全
南緯	二十四度六分	四國	自二十二里至五十二里	灣港	五港後出	石廊崎	全
北緯	五十五度五十六分	九州	自三十四里至全四里	東京灣	東海道	御前崎	全
北緯	五十五度八分	北海道	自百四里至百十四里	駿河灣	全	大矢崎	全
山陽道	備前	備中	備前	伊勢灣	東山道	龍飛崎	全
備後	安藝	備前	備前	松島灣	東山道	烏井岬	全
周防	長門	備前	備前	杜鹿峽	東山道	石野川	北海道 百六十七里
南紀伊	淡路	備前	備前	北郡峽	全	信濃川	本州 百七十里
阿波	讚岐	備前	備前	衣月峽	全	北上川	本州 七十六里
伊豫	土佐	備前	備前	鹽屋峽	全	江ノ川	本州 七十六里
豐前	筑後	備前	備前	小竹峽	北陸道	利根川	本州 六十二里
筑前	肥後	備前	備前	米籠峽	全	最上川	本州 六十二里
日向	大隅	備前	備前	藤戶峽	山陽道	天龍川	本州 六十里
薩摩	壹岐	備前	備前	諫早峽	西海道	庄川	本州 五十八里
對馬		備前	備前	愛津峽	全	阿武隈川	本州 五十里
		備前	備前	岬崎	東海道	木曾川	本州 四十六里
		備前	備前	富津岬	東海道	大井川	本州 四十六里
		備前	備前	犬吠岬	全	川内川	九州 四十六里
		備前	備前			紀伊川	本州 四十六里

新撰地誌附録之日本第一表

吉野川	四國 四十一里	甘蔗	青六三六六	玉露	二二二六	羽根田	緑色 四丈	十海里半	東京	幸橋内
筑後川	九州 三十五里	蘆粟	一五二七五	煎茶	七六六四三	横濱波邊	赤色 四丈八尺	六海里	京都	二條城
球摩川	九州 二十四里	楮皮	二八〇五〇	日乾茶	四〇六六	本牧燈船	赤色 三丈六尺	十海里	大坂	江ノ子島町
富士川	本州 十八里	葉燒草	一八七九六	江茶	七四三九八	觀音崎	白色 十七丈八尺	十七海里	横濱	本町通二丁目
琵琶湖	近江	雁皮	一六七四六	烏龍	一九九	觀音崎	赤色 十四丈六尺	七海里	兵庫	神戸長狹通四丁目
震浦	常陸	二極	四二九三	番茶	二二二五〇	劍崎	白色 十一丈	十六海里半	長崎	外浦町
		漆汁	六五三七	山塩	二二二五	城ヶ島	緑色 十丈六尺	十海里	新潟	西堀通
				食鹽	二二二五	野島崎	白色 十三丈三尺	十七海里半	函館	元町
						神子島	白色 十六丈四尺	十九海里半	府縣及道廳管轄國郡	
大豆	〇本〇〇〇〇〇〇	東京横濱間	七五七町五十九間	金花山	白色 十七丈八尺	石室崎	赤色 十八丈五尺	十海里	和歌山縣	紀伊ノ二郡ノ陸ノ
蕎麥	一〇〇〇〇〇〇〇〇	神戸大津間	七五七町五十九間	大吠崎	白色 十六丈八尺	金花山	白色 十七丈八尺	十九海里半	德島縣	阿波一國
蜀黍	一〇〇〇〇〇〇〇〇	敦賀大垣間	一里三十四町	勝地		愛媛縣	讚岐伊豫一國		高知縣	土佐一國
玉蜀黍	一〇〇〇〇〇〇〇〇	高崎横川間	七五七町五十九間	宮島	安藝 嵐山山城	福岡縣	筑前若穂一國		福岡縣	筑前若穂一國
甘藷	一〇〇〇〇〇〇〇〇	手宮梶内間	一里三十四町	天橋立	丹後 三保松原 駿河	大分縣	筑前若穂一國		大分縣	筑前若穂一國
馬鈴薯	一〇〇〇〇〇〇〇〇	上野前橋間	一里三十四町	松島	陸前 日光下野	佐賀縣	肥前内 基津美 三郡		佐賀縣	肥前内 基津美 三郡
特有農産		品川赤羽間	五里十町四十五間	明石浦	播磨 江ノ島相模	熊本縣	肥後一國		熊本縣	肥後一國
		宇都宮大宮間	二里二町四十五間	姥桑山	信濃	宮崎縣	日向 南諸縣		宮崎縣	日向 南諸縣
		堺大坂間	一里二町二間	吉野山	大和	鹿兒島縣	大隅薩摩一國		鹿兒島縣	大隅薩摩一國
		燈臺		三府五港位置		沖繩縣	琉球一國		沖繩縣	琉球一國
		品川	赤色 五丈二尺			北海道德	北海道一國		北海道德	北海道一國

新撰地誌附録之日本第二表

Table with multiple columns listing geographical locations, products, and administrative divisions. Columns include '品名' (Product Name), '産地' (Origin), '著名鑛山' (Famous Mines), '羽根田' (Wing Field), '京府五港位置' (Location of Capitals and Five Ports), and '府縣及道廳管轄國郡' (Prefecture, County, and Province/Departmental Jurisdiction). Rows list various items like rice, oil, and minerals, along with specific locations and their administrative status.

新撰地誌附録

日本第三表

郡町村數		國別人員	
國名	行政郡數町數	村數	人員
全國	八百	一萬二千四百五十五	三千七百八十六萬八千九百八十七人
山城	八	九百三十七	四十七萬五千五百十人
大和	十五	二千六百四	三十八萬八千二百十四人
河內	十六	五千四百四	二十七萬六千四百四十五人
加賀	四	六百七	四十七萬五千五百十人
能登	四	二百九	三十八萬八千二百十四人
越中	五	五百六	二十七萬六千四百四十五人
越後	十五	二千四百六十九	四十七萬五千五百十人
佐渡	三	二百九	三十八萬八千二百十四人
丹波	七	七百三十三	二十七萬六千四百四十五人
丹後	五	三百九十六	四十七萬五千五百十人
但馬	八	四百七	三十八萬八千二百十四人
因幡	八	四百七	二十七萬六千四百四十五人
伯耆	六	九十九	四十七萬五千五百十人
出雲	十	七十一	三十八萬八千二百十四人
石見	六	八	二十七萬六千四百四十五人
隱岐	四	三	四十七萬五千五百十人
播磨	十六	百七十四	三十八萬八千二百十四人
肥前			百十六萬七千五百九十六人
肥後			百〇三千三百七十人
日向			四十四萬九千五百三十四人
大隅			三十七萬二千八百八十四人
薩摩			五十三萬六千四百四十四人
壹岐			三萬四千二百〇八人
對馬			三萬〇六百三十六人
琉球			三十六萬六千八百六十四人
渡島			十一萬〇七百〇三人
函館			三萬八千四百七十七人
新瀉			三萬七千四百二十六人
松江			三萬六千四百三十一人
鳥取			三萬五千三百七十七人
岡山			三萬四千三百七十八人
盛岡			三萬四千三百三十九人
長崎			三萬三千七百四十三人
靜岡			三萬二千九百五十一人
秋田			三萬四千五百五十八人
赤間關			三萬四千七十七人
弘前			二萬九千四百五十八人
米澤			二萬七千九百六十八人
松山			二萬七千九百八十八人
高知			二萬七千六百二十四人
駿河			四十二萬〇百十六人
甲斐			四十二萬七千七十人
伊豆			十六萬九千七百三十六人
相模			四十二萬五千三百七十九人
武藏			二百四十萬〇七千八百九十二人
安房			十六萬〇九百三十八人
上總			四十五萬二千〇三十七人
下總			七十三萬二千九百五十五人
常陸			七十四萬二千二百〇一人
備後			五十二萬三千八百八十五人
安藝			七十六萬〇四百十人
周防			五十四萬六千三百九十一人
長門			三十五萬八千四百五十九人
紀伊			六十七萬三千九百九十六人
淡路			十八萬七千九百九十七人
阿波			六十五萬五千九百四十一人
讚岐			六十四萬五千三百九十五人
伊豫			八十八萬八千三百三十六人
土佐			五十四萬九千六百二十人
筑前			四十九萬七千八百〇五人
筑後			四十三萬五千三百七十七人
豐前			三十四萬八千六百六十九人
豐後			六十二萬六千三百七十四人

新撰地誌附録

日本第三表

郡町村數

郡名	行政郡數	町數	村數
全國	八百	一萬二千四百五十九	三萬三千六百六十六
山城	八	千九百七十七	三萬五千五百七十七
大和	十五	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
河內	十六	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
和泉	四	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
攝津	十二	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
伊賀	四	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
伊勢	十三	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
志摩	二	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
尾張	九	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
三河	十	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
遠江	十二	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
駿河	七	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
甲斐	九	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
伊豆	四	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
相模	九	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
武藏	二十九	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
安房	四	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
上總	九	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
下總	十五	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
常陸	十二	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
近江	十三	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
美濃	二十二	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
飛騨	三	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
信濃	十六	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
上野	十七	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
下野	十	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
磐城	十四	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
岩代	十	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
陸前	十四	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
陸中	十八	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
陸奥	九	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
羽前	十	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
羽後	九	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
若狹	三	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
越前	八	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
加賀	四	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
能登	四	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
越中	五	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
越後	十五	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
佐渡	三	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
丹波	七	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
丹後	五	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
因幡	八	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
伯耆	六	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
出雲	十	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
石見	六	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
隱岐	四	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
播磨	十六	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
肥前	十六	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
肥後	十六	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
日向	八	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
大隅	九	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
薩摩	十三	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
鹿兒島	六	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
琉球	無	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
對馬	二	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
壱岐	二	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
豐前	十	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
豐後	十	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
筑前	十五	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
筑後	十	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
土佐	七	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
伊豫	十八	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
讚岐	十二	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
阿波	十	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
淡路	二	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
紀伊	十	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
長門	六	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
周防	六	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
安藝	八	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
備後	十四	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
備前	八	二千六百四十四	三萬三千三百三十三
美作	十二	二千六百四十四	三萬三千三百三十三

戶數及人口

明治十八年調

國別人員

肥前	百十六万七千五百九十六人
肥後	百〇三万三千三百七十人
日向	四十七万九千五百三十四人
大隅	三十七万二千八百八十四人
薩摩	五十三万六千四百四十四人
壱岐	三万四千二百〇八人
對馬	三万〇六百三十六人
琉球	三十六万六千八百六十四人
渡島	十一万〇七百〇三人
後志	三万八千八百〇五人
石狩	一万九千七百二十三人
天鹽	三千〇五十九人
北見	千七百六十四人
膽振	一万〇七百三十一人
日高	九千三百九十九人
十勝	千九百七十九人
釧路	四千二百七十九人
根室	三千三百四十四人
千島	五百十六人
小笠原島	三百二十九人
都市人員	明治十七年一月調
東京	八十八万六千九百九十九人
大阪	三十五万二千二百二十四人
京都	二十四万五千二百一十一人
名古屋	十三万三千八百二十一人
金澤	十万七千二百七十六人
廣島	七万六千三百九十五人
横濱	七万四千二百五十四人
徳島	六万四千二百一人
和歌山	五万六千七百九十九人
仙臺	五万四千六百六十一人
神戸	五万二千四百三十二人
鹿兒島	四万七千三百六十八人
福岡	四万六千二百六十八人
富山	四万五千七百五十九人
堺	四万四千七百七十九人
萩	四万三千七百五十七人
高松	四万二千五百八十一人
福井	四万二千八百八十二人
熊本	四万五千五百十三人
函館	三万八千四百七十七人
新潟	三万七千四百二十六人
松江	三万六千四百三十一人
鳥取	三万五千三百七十七人
岡山	三万四千三百七十八人
盛岡	三万四千三百三十九人
長崎	三万三千七百四十三人
静岡	三万二千九百五十一人
秋田	三万四千五百五十八人
赤間関	三万四千七十七人
弘前	二万九千四百五十八人
米澤	二万七千九百六十八人
松山	二万七千九百九十九人
高知	二万七千六百二十四人

新撰地誌自一至四

明治十九年五月三日

版權免許

同 卷一 卷二 卷三 卷四
明治二十年一月二十一日訂正再板御届
明治二十年五月三十日訂正再板御届

編纂人

東京府平民 岡村增太郎
東京神田區松永町十九番地

出版人

滋賀縣士族 小林義則
東京日本橋區本町四丁目十六番地

發兌

文 學 社
東京日本橋區本町四丁目十六番地



